

施設の防火・防災対策などに関する
情報コンテンツ集（例）（案）
【9月21日時点版】

目 次

■はじめに

■情報コンテンツ集（例）（その1） <施設利用者への情報提供を想定>

- 1 施設に講じられている基本的な防火・防災対策
 - ① 消防用設備等の機能や効果
 - ② 耐震性能等に関する情報
 - ③ 自衛消防隊員の基本的な活動内容
 - ④ 防災センター等や自衛消防隊員が伝達する情報（メッセージ）の例文
 - ⑤ デジタルサイネージ等で表示するコンテンツの例 ※WG1で検討中。

- 2 施設利用者の方にご理解・ご配慮いただきたい事項
 - ① 異常事態等を発見した際の施設関係者への連絡要領等
 - ② 外国人来訪者や障がい者等が周囲にいる場合の情報伝達や避難誘導についてご理解・ご配慮いただきたい事項

- 3 個別対応を希望する旨の申出方法など

■情報コンテンツ集（例）（その2） <施設側で活用することを想定>

- 1 外国人来訪者や障がい者等の特性に応じた留意事項など
 - ① （母語で情報伝達ができない場合における）外国人来訪者への情報伝達の方法
 - ② 障がいなど様々な特性がある方への情報伝達・避難誘導の際の留意事項

■はじめに

情報コンテンツ集（例）の目的

外国人来訪者や障がい者等が利用する施設において、火災や地震発生時のパニックを防止し、円滑な情報伝達や避難誘導を行うためには、これらの施設に講じられている防火・防災対策や火災及び地震が発生した際の行動などについて、施設関係者から施設利用者に予め周知されていることが重要です。

また、ボランティア等を含む施設関係者が外国人来訪者や障がい者等に配慮した情報伝達や避難誘導を行う際の留意事項などについて理解しておくことが重要です。

本コンテンツ集（例）は、施設関係者が、施設利用者に予め周知しておく情報コンテンツを用意する際や、外国人来訪者や障がい者等に配慮した情報伝達・避難誘導に関する従業員教育を行う際などに、情報コンテンツの例を施設の実情に合わせて、選択して活用することを想定し、「外国人来訪者等が利用する施設における災害発生時の情報伝達や避難誘導に関するガイドライン」の資料編として作成したものです。

（本コンテンツ集（例）は、例文のほか、イラストや写真などについても、消防庁ホームページからダウンロードすること等により、自由に活用できます。）

情報コンテンツ集（例）の構成

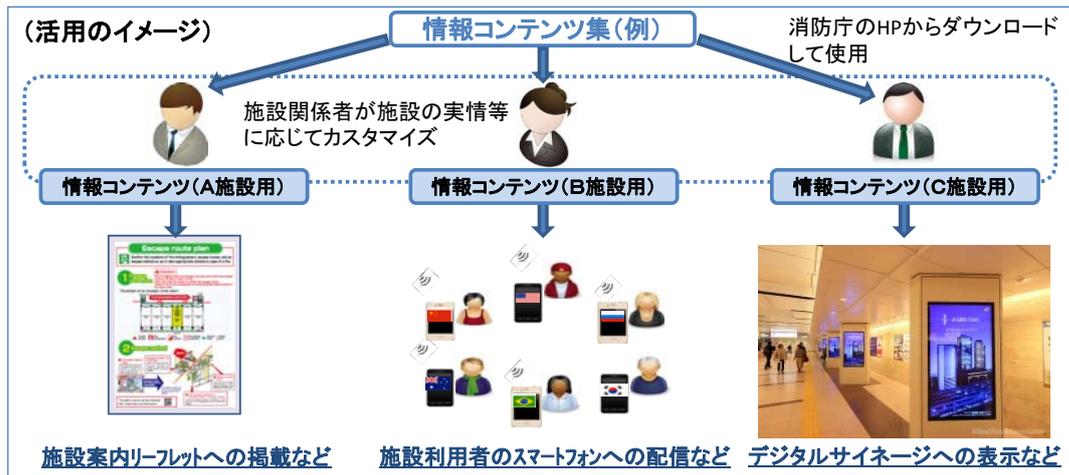
本コンテンツ集（例）は、

- 施設関係者が、施設利用者に予め周知しておく情報を用意する際に活用することを想定している「情報コンテンツ集（例）（その1）」
- 施設関係者が、従業員教育等の際に活用することを想定している「情報コンテンツ集（例）（その2）」

の2つから構成されています。

情報コンテンツ集(例)(その1)

1 施設に講じられている基本的な防火・防災対策(たたき台)



1

構成

情報コンテンツ集(例)(その1)

<施設利用者への情報提供を想定(⇒多言語化)>

1 施設に講じられている基本的な防火・防災対策

① 消防用設備等の機能や効果

② 耐震性能等に関する情報

③ 自衛消防隊員の基本的な活動内容

④ 防災センター等や自衛消防隊員が伝達する情報(メッセージ)の例文

⑤ デジタルサイネージ等で表示するコンテンツの例 ※WG1で検討中。

2 施設利用者の方にご理解・ご配慮いただきたい事項

3 個別対応を希望する旨の申出方法など

2

① 消防用設備等の機能や効果

3

①の1 消火器 (1/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○この施設には、「消火器」が設置されています。

<多言語翻訳>

○消火器は、「消火器」の表示があるところに置いてあります。

消火器



消火器の表示
(日本語表記)



消火器の表示
(ピクトグラム)



JIS Z8210

4

①の1 消火器（2／3）

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○火災を発見した場合は、すぐに従業員等にお知らせください。
従業員が駆けつけるまでの間、可能ならば消火器を使った消火にご協力ください。

○消火器の使い方は以下のとおりです。

- ①消火器を火元まで搬送します。
- ②消火器上部についている黄色の安全栓を抜きます。
- ③ホースのノズルを握り、燃焼物に向けます。
- ④レバーを強く握り、消火薬剤を放射します。



消火器の使用方法

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

<イラストはイメージとして仮置き>

5

①の1 消火器（3／3）

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○消火器を使うときは、次のことに留意してください。

- ①退路を確保してから使用します。
- ②消火するときは火傷をしないよう、火元に近づき過ぎないでください。
- ③手前から火の根元をねらい放射します。
- ④風がある場合は、風上から放射します。
- ⑤人に向けて放射してはいけません。
- ⑥可能ならば燃焼を抑えた後に水をかけてください。
- ⑦身の危険を感じた場合は、避難してください。

○消火器では消せない大きさ(背丈を超える程)の火は、駆け付けた従業員等が消火栓で放水して、消火します。

<屋内消火栓による放水イメージイラスト>

6

①の2 スプリンクラー設備

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

<多言語翻訳>

○この施設には「スプリンクラー」が設置されています。

○スプリンクラーヘッドが火災時の熱を感知し、自動的に放水し、消火します。

<スプリンクラーによる放水イメージイラスト>

○スプリンクラーヘッドが火災の熱を感知し、放水を開始すると、警報音でお知らせします。

○スプリンクラーヘッドが火災の熱を感知し、放水を開始すると、次の放送が流れます。

「火事です、火事です、○階で火災が発生しました。落ち着いて避難して下さい。」

○落ち着いて、放送内容や従業員等の指示に従ってください。

7

①の3 自動火災報知設備(1/2)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

<多言語翻訳>

○この施設には「自動火災報知設備」が設置されています。

○感知器が火災時の熱や煙を感知した場合、自動的に警報音でお知らせします。

○落ち着いて、放送内容や従業員等の指示に従ってください。

○火災を発見した場合に発信機を押すと、火災の発生を施設の従業員等や周りの施設利用者に知らせることができます。

○発信機が押された場合、警報音でお知らせします。

<警報音の試聴>

<感知器の作動・ベル鳴動・発信機イメージイラスト>

①の3 自動火災報知設備(2/2)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

<多言語翻訳>

○感知器が作動した場合、次の放送が流れます。

(シグナル音の後)

「ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」(女声)

<シグナル音・メッセージの試聴>

○火災の場合、次の放送が流れます。

(シグナル音の後)

「火事です、火事です、○階で火災が発生しました。落ち着いて避難して下さい。」(男声)

<シグナル音・メッセージの試聴>

○誤報など火災ではなかった場合は、次の放送が流れます。

(シグナル音の後)

「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください」(女声)

<シグナル音・メッセージの試聴>

9

①の4 誘導灯・誘導標識(1/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○この施設には「誘導灯」が設置されています。

○「避難口誘導灯」は、次のところに設置されています。

- ・地上(屋外)に通じる出入口
- ・階段に通じる出入口
- ・部屋から廊下などに通じる出入口

○この施設には光の点滅により避難口の位置をお知らせする「誘導灯」が設置されています。

○この施設には音声により避難口の位置をお知らせする「誘導灯」が設置されています。



避難口誘導灯

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

<避難口誘導灯が設置されている場所のイメージイラスト>

10

①の4 誘導灯・誘導標識(2/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○「通路誘導灯」は、次のところに設置されています。

・避難経路となる廊下や通路

○通路誘導灯の矢印が指す方向に避難口があります。



通路誘導灯

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

<通路誘導灯が設置されている場所のイメージイラスト>

○火災や地震のときは、従業員の指示に従い、誘導灯を目印に

避難してください。エレベーターやエスカレーターは使用しないでください。

○誘導灯は停電のときでも、少なくとも20分間点灯します。

11

①の4 誘導灯・誘導標識(3/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○この施設には「誘導標識」が設置されています。

○「避難口誘導標識」は、次のところに設置されています。

・地上(屋外)に通じる出入口

・階段に通じる出入口

・部屋から廊下などに通じる出入口

○「通路誘導標識」は、次のところに設置されています。

・避難経路となる廊下や通路

○通路誘導標識の矢印が指す方向に避難口があります。

○蓄光式の誘導標識は、停電時でも避難口の方向を確認できます。

<写真>

誘導標識の表示
(日本語表記)

<誘導標識が設置されている場所のイメージイラスト>

12

①の5 避難器具 (1/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- この施設には、「避難器具」が設置されています。
- 避難器具は、「避難器具」の表示がある所に設置されています。
- 避難器具は、火災時の熱や煙などにより、階段で避難できないときに、最終手段として用いる器具です。
- 取付や使用の際は、従業員等の指示に従ってください。
避難器具の種類や取付位置によって使用方法が異なります。

<写真>

避難器具の表示
(日本語表記)

<避難器具が設置されている場所のイメージイラスト>

13

①の5 避難器具 (2/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

※施設に設置されている避難器具の種類に応じて、施設側で内容を選択して活用することを想定。 <多言語翻訳>

○斜降式救助袋の使用方法 その1

①格納箱を外す。



②誘導砂袋(ロープ)を地上作業員に投下する。



③地上操作員に合図し、救助袋を降ろす。



<イラストはイメージとして仮置き>

14

①の5 避難器具 (3/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○斜降式救助袋の使用法 その2

<多言語翻訳>

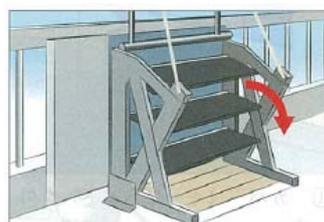
④袋本体を降ろし終わったら、支持金具を引き起こす。



⑤救助袋の支持枠を外に出す。



⑥ステップを倒す。



<イラストはイメージとして仮置き>

15

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

①の5 避難器具 (4/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

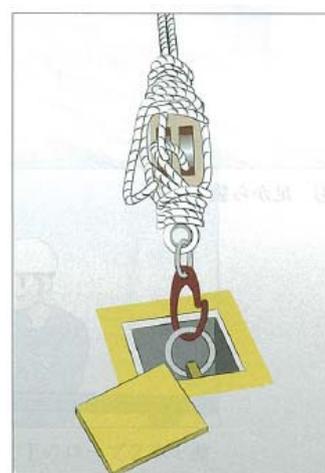
○斜降式救助袋の使用法 その3

<多言語翻訳>

⑦地上操作員は、フックを固定環にかける。
ロープを引き、救助袋を展張する。



⑨地上操作員は、ロープの端
末処理を確実にを行う。



⑧地上操作員は、端末のロープを展張ロープ
と滑車の間に挟み、逆方向に踏み込む。



<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

16

①の5 避難器具 (5/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○斜降式救助袋の使用法 その4

<多言語翻訳>

⑩足から救助袋に入り、降下準備が整うまで安心綱を握る。



⑪降下準備ができたなら安心綱を離し、両手を頭の上に上げ、ひじを張らずに足を若干持ち上げ、腰で滑る。地上操作員は、降下者を受け布で止める。



<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

17

①の5 避難器具 (6/11)

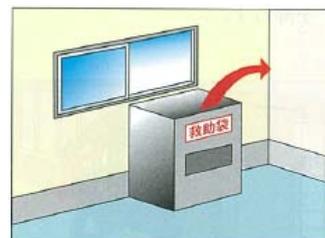
施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

※施設に設置されている避難器具の種類に応じて、施設側で内容を選択して活用することを想定。

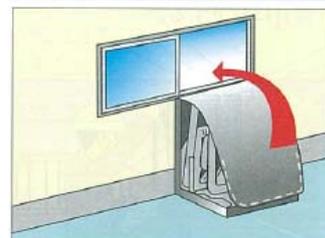
<多言語翻訳>

○垂直式救助袋の使用法 その1

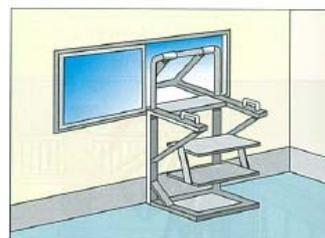
①カバー(キャビネット)を外す。



②袋を窓から降ろす。



③袋の支持枠を屋外に出す。



<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

18

①の5 避難器具 (7/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○垂直式救助袋の使用方法 その2

<多言語翻訳>

④足から袋に入る。



⑤身体を十分に伸ばし、両手は耳を保護する姿勢で上げ、足はまっすぐ伸ばして降下する。降下速度が速すぎた場合は、ひじ・ひざを曲げてブレーキをかける。(救助袋の構造によっては、ひじ・ひざを曲げてはいけないものもある。)



<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

19

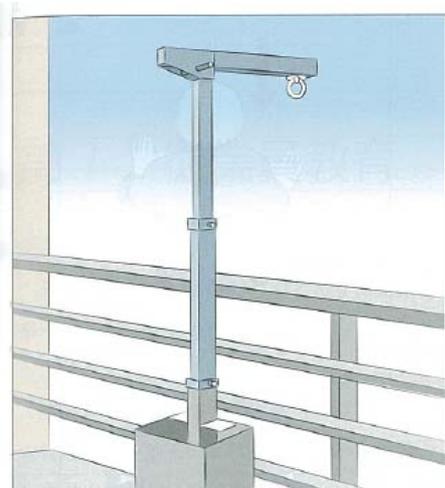
①の5 避難器具 (8/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

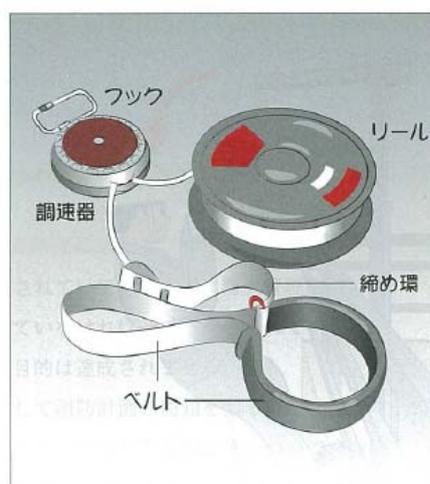
※施設に設置されている避難器具の種類に応じて、施設側で内容を選択して活用することを想定。

<多言語翻訳>

○緩降機の使用方法 その1



①緩降機の設置場所に表示されている設定方法に従い、取付金具を設定する。



②本体収納箱から調速器及び着用具を取り出す。

<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

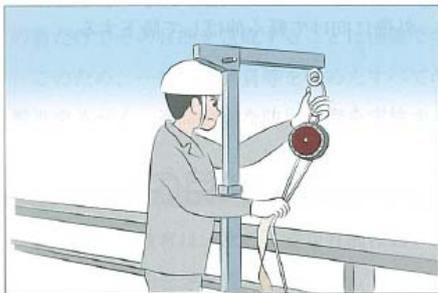
20

①の5 避難器具 (9/11)

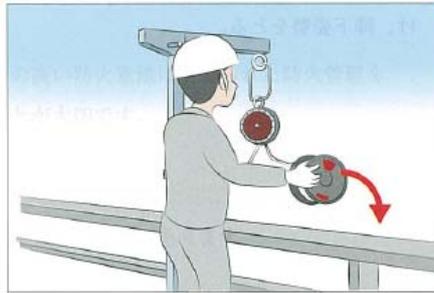
施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○緩降機の使用法 その2

<多言語翻訳>



- ③フックを取付用アームの吊り輪にかけ、调速器を取り付ける。フックの安全環を確実に締める。



- ④降下空間及び付近の安全を確認し、リールを投下する。取付金具、调速器、ロープ、ベルトなどを点検し、異常の有無と降下空間付近の安全を確認する。

<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

21

①の5 避難器具 (10/11)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○緩降機の使用法 その3

<多言語翻訳>



- ⑤降下者はベルトを頭からかぶり、ねじれのないように脇の下に確実に装着する。



- ⑥両手で调速器のすぐ下のロープ2本を握る。

<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

22

①の5 避難器具 (11/11)

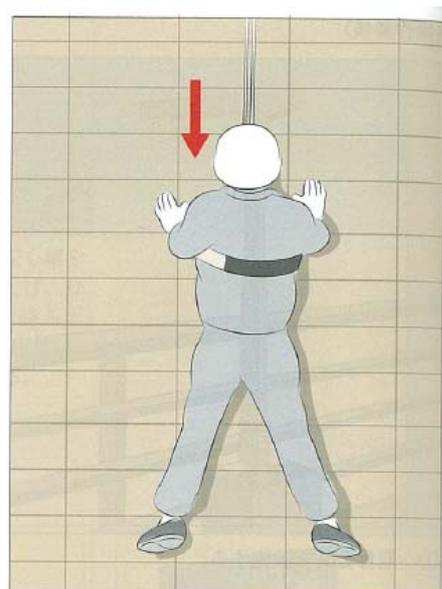
施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○緩降機の使用法 その4

<多言語翻訳>



⑦外に出て、窓枠又はベランダ等に足をかけ、降下姿勢をとる。



⑧両手をロープから離し、その手を建物の外壁に向けて軽く伸ばして降下する。

<イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

23

①の6 避難階段・防火戸 (1/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

○この施設には、「避難階段」が設置されています。

<多言語翻訳>

○火災や地震のときは、従業員等の指示に従い、避難階段で避難して下さい。

○避難階段は、火や煙を遮るために防火戸などで区画されています。

○避難階段の位置は、避難経路図で確認して下さい。

○避難のときは、エレベーターやエスカレーターは使用しないで下さい。



避難階段

(一般財団法人日本防火・防災協会
「防火管理講習テキスト」より引用)

<エレベーターやエスカレータの
使用禁止のイメージイラスト>

<イラストはイメージとして仮置き>

24

①の6 避難階段・防火戸（2／3）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（協力・行動してもらうための情報）

<多言語翻訳>

- 避難階段の近くには、火や煙を遮るための防火戸や防火シャッターが設置されています。
防火戸や防火シャッターは火災時の煙や熱を感知して自動的に閉まるものがあります。近くにいる場合はご注意ください。
- 二段降下式の防火シャッターは、煙の広がりを防ぐため、一定の高さまで降りたところで、一旦停止します。
避難を確認した後、再び防火シャッターを作動させ、床面まで降ろします。

<防火戸・防火シャッターの作動（閉鎖）
に注意を促すイメージイラスト>

<二段降下式の防火シャッターの作動
（閉鎖）イメージイラスト>

25

①の6 避難階段・防火戸（3／3）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（協力・行動してもらうための情報）

<多言語翻訳>

- 防火戸が閉まっても閉じ込められるわけではなく、押し開けて避難することができます。
- 防火戸のくぐり戸には誘導標識が設置されています。

<イメージとして仮置き>

<写真>



誘導標識の表示
（日本語表記）

<誘導標識が貼られたくぐり戸から避難するイラストとする>
（一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用）

26

①の7 避難経路図

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○この施設の「避難経路図」は次のとおりです。

※施設の避難経路図を併せて掲載等することを想定。

○避難経路図は、次の場所に掲示されています。

- ・エレベーターホール
- ・ロビー
- ・宿泊室のドア

○避難経路図で、次のことが確認できます。

- ・避難階段の位置
- ・避難経路
- ・一時的な避難場所

<避難経路図のイメージイラスト>

27

①の8 火の使用等に関する制限

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○この施設では喫煙が禁止されています。

○この施設では火の使用が禁止されています。

○この施設では危険物品の持込みが禁止されています。

<イメージとして仮置き>



(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

<「危険物品」の例示イラスト>

28

①の9 非常照明

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

○この施設には「非常照明」が設置されています。

[<多言語翻訳>](#)

○火災や地震で停電が起きた場合でも、一定の明るさが30分以上保たれます。停電前よりは暗くなりますが、ご安心ください。

②耐震性能等に関する情報

②の1 耐震性能

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

<施設の耐震性能に応じて、施設側で内容を選択等して活用することを想定。>

<多言語翻訳>

○この施設は、大規模の地震(震度6強~7)で、倒壊・崩壊しない建物となっています。

※昭和56年6月1日に導入された耐震基準(国土交通省HPより)

○この施設は、耐震化されていますので安全です。

○地震発生時、建物からの避難が必要な場合は、従業員等がお知らせします。

震度階級	人の体感・行動
7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず
6強	飛ばされることもある。
6弱	立っていることが困難になる。
5強	大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。

(「気象庁震度階級の解説」(平成21年3月 気象庁)より引用)

31

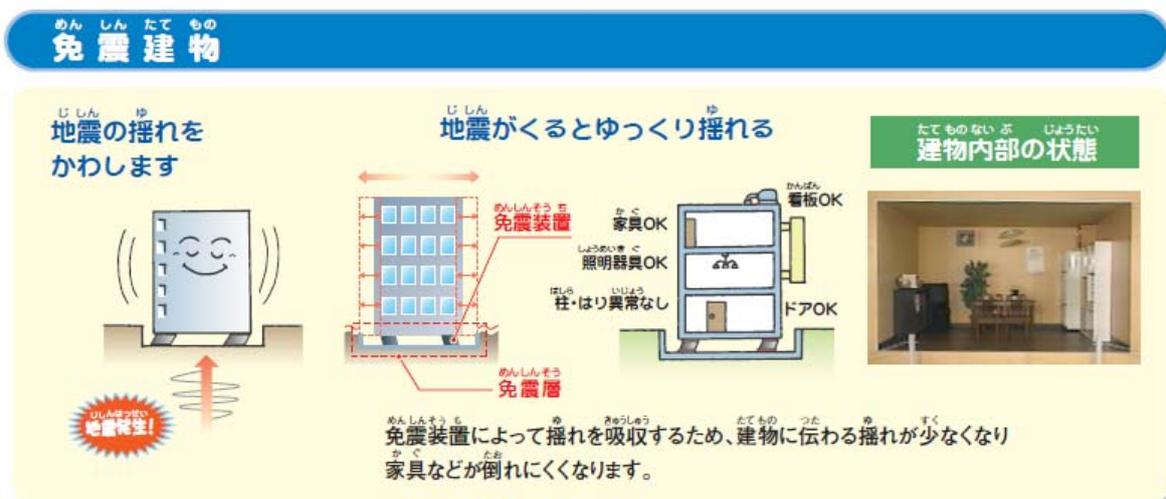
②の2 免震構造

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

○この施設には「免震装置」が設置されています。

<多言語翻訳>

○免震装置は建物へ伝わる地震の揺れを減らします。



(日本免震構造協会HPより転載)

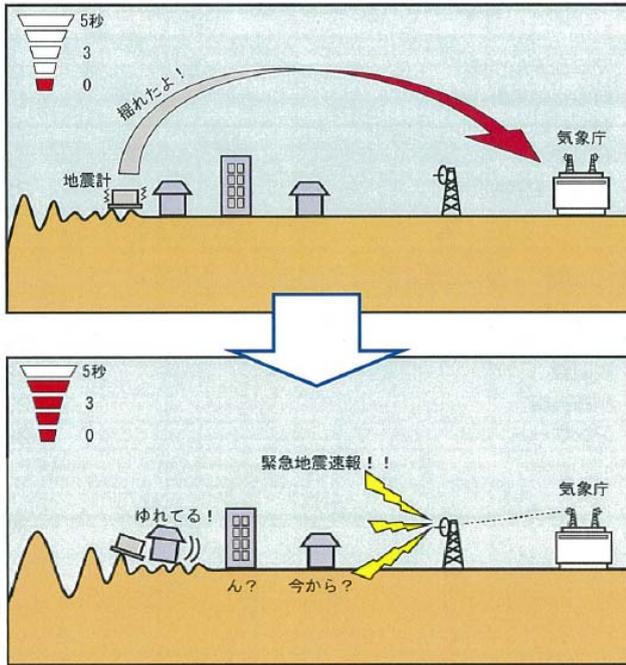
<イラストはイメージとして仮置き>

32

②の3 緊急地震速報（1／2）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（安心情報）

<多言語翻訳>



緊急地震速報

<イラストはイメージとして仮置き>

（緊急地震速報の利活用の手引き（施設管理者用）
Ver.1.0（気象庁）より引用）

○緊急地震速報は、大きな地震が発生したときに、地震の発生直後に地震計でとらえた観測データを素早く解析して、震源や地震の規模（マグニチュード）、予想される揺れの強さ（震度）を自動計算し、大きな揺れがくることを事前に知らせる警報です。

○緊急地震速報は、最大震度5弱以上の揺れが予想されるときに、震度4以上の揺れが予想される地域に対して発表されます。

○緊急地震速報は、気象庁の発表を受けて直ちに各自治体に設置してある防災行政無線や、テレビ・ラジオのほか、携帯電話（スマートフォンを含む）の「緊急速報メール」などで伝えられます。

（政府広報オンライン「緊急地震速報」と「津波警報」
いざそのとき、身を守るために！より引用）

33

②の3 緊急地震速報（2／2）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（安心情報）

<多言語翻訳>

○この施設には、「緊急地震速報」を受信する装置が設置されています。

○緊急地震速報を受信した場合、施設内に次の放送が流れます。

（チャイム音の後）

「緊急地震速報です。地震が発生しましたので落ち着いて行動して下さい。」

「緊急地震速報です。強い揺れに警戒。身の安全を確保して下さい。」

「ただいま地震が発生しました。当館は耐震化されていますので安全ですが、念のため頭を保護し、落ち着いて係員の指示に従って下さい。」

<チャイム音の試聴>

（緊急地震速報の利活用の手引き（施設管理者用）Ver.1.0（気象庁）より引用）

○安心して、放送内容や従業員等の指示に従ってください。

<身の安全を確保しているイメージイラスト>

34

③ 自衛消防隊員の基本的な活動内容

35

③の1 自衛消防隊員の基本的な活動内容 (1/2)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(安心情報)

<多言語翻訳>

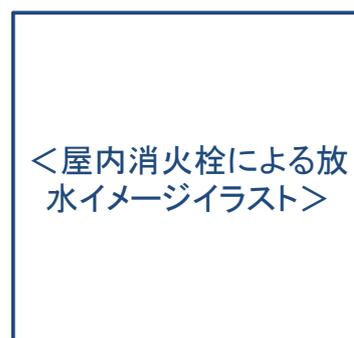
- この施設では、従業員等が「自衛消防隊」を組織しています。
自衛消防隊が火災や地震の時に、避難誘導や初期消火、消防機関への通報を行います。
- 自衛消防隊は、避難誘導や初期消火、消防機関への通報などの訓練を定期的に行っています。
- 火災や地震のときは、従業員等の指示に従ってください。



避難誘導



消防機関への通報



初期消火

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

<イラストはイメージとして仮置き>

36

③の1 自衛消防隊員の基本的な活動 内容 (2/2)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- 火災や地震のときは、従業員等が避難誘導を行います。
- 火災のときは、出火場所に近いところから順に避難誘導します。
- 避難のときは、エレベーターやエスカレーターは使用しないで下さい。
- 従業員等を次の箇所に配置します。
 - ・通路や廊下の曲がり角
 - ・階段の入口
 - ・エレベーターやエスカレーターの前



避難誘導 <イラストはイメージとして仮置き>

(一般財団法人日本防火・防災協会「防火管理講習テキスト」より引用)

37

③の2 自衛消防隊員が行う避難誘導時 に留意いただきたい事項

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- 従業員等の指示に従い、落ち着いて避難してください。
- 廊下や通路などに煙りが充満している場合は、煙を吸わないように、ハンカチなどで口をおさえ、姿勢を低くして避難して下さい。



煙を吸わないように低い姿勢で避難する

(東京都総務局HPより引用)

<イラストはイメージとして仮置き>

- ケガをした方や気分が悪くなった方は、お近くの従業員等にお知らせください。

38

④ 防災センター等や自衛消防隊員が伝達する情報(メッセージ)の例文

39

④の1 火災発生時の例文

施設利用者への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報や安心情報)

<多言語翻訳>

<本資料末尾、参考資料5-9①参照>

40

<本資料末尾、参考資料5-9②参照>

⑤デジタルサイネージ等で表示する コンテンツの例

⑤の1 デジタルサイネージ等で表示するコンテンツの例

施設利用者への情報提供を想定
(火災等に係る情報や避難誘導するための情報)

<多言語翻訳>

- 音声等では火災情報を十分に理解することができない外国人や障がい者の方等に対して、デジタルサイネージを活用して情報伝達・避難誘導を行う場合には、次ページ以降の留意事項や表示コンテンツ例を参考としてください。

※ 非常用放送設備の音声警報メッセージの放送に合わせて、デジタルサイネージの表示コンテンツを切り替えることを想定。

【⑤の2】 火災時に表示するコンテンツを作成する際に留意すべき事項

⇒コンテンツを作成する際に留意すべき事項の概要

【⑤の3】 感知器発報放送時のコンテンツ例

⇒自動火災報知設備の感知器が作動した場所や火災かどうか確認中である旨の情報を伝達するコンテンツ例

【⑤の4】 火災放送時のコンテンツ例

⇒火災が発生した場所や避難経路その他避難するために必要な情報を伝達するコンテンツ例

【⑤の5】 非火災報放送時のコンテンツ例

⇒自動火災報知設備の感知器の作動は非火災報であった旨の安心情報等

震災時のコンテンツ例

⇒地震が発生する旨の情報や行動指示に関する情報等

- デジタルサイネージが設置されていない施設において、フリップボードを活用する場合の表示例は、デジタルサイネージの表示コンテンツ例を参考としてください。

43

⑤の2 火災時に表示するコンテンツを作成する際に留意すべき事項

施設利用者への情報提供を想定
(火災等に係る情報や避難誘導するための情報)

※ 「外国人来訪者等に配慮した火災時等の情報伝達・避難誘導を目的とするデジタルサイネージ活用指針」から抜粋

火災時に表示するコンテンツを作成する際に留意すべき事項の概要

(1) 表示内容	(2) 多言語による文章表示	(3) 文字
<ul style="list-style-type: none"> ○ 火災に係る情報を伝達するための事項 <ul style="list-style-type: none"> ・火災が発生した場所や感知器が作動した場所 ・非火災報であった旨の情報 ・その他火災に係る情報 ○ 避難誘導するための事項 <ul style="list-style-type: none"> ・避難を促すための情報 ・避難経路や方向の情報 ・その他避難するために必要な情報(スロープによる避難経路や一時待機エリアの表示等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表示する言語 <ul style="list-style-type: none"> ⇒原則として日本語と英語 ○ 表示する文章 <ul style="list-style-type: none"> ⇒原則として非常用放送設備の放送内容を踏まえた文章を採用(施設の実態に応じてやさしい日本語を採用) ○ 表示方法 <ul style="list-style-type: none"> ⇒原則として日本語と外国語を併記● ((3)の最低限の文字の大きさが確保できない場合は切り替えも可) ⇒各言語は上下にまとめて表示● 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表示方法 <ul style="list-style-type: none"> ⇒重要な情報は最も大きな文字で上部に表示 ⇒文字数は日本語で1画面80文字まで ○ 大きさ <ul style="list-style-type: none"> ⇒ロービジョンの方にも配慮した大きさ ○ 書体 <ul style="list-style-type: none"> ⇒視認性が高いゴシック体系の書体やUD(ユニバーサルデザイン)書体を使用 <p>【UD書体例】</p> <p>出口案内 出口案内</p>
(4) 色	(5) 絵・図等	(6) 画面構成
<ul style="list-style-type: none"> ○ 色はJIS規格の安全色を使用 ○ ロービジョンや色覚異常等の特性を有する方に配慮し、白黒反転表示(背景色を暗色、文字を明色) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難経路を伝達するために平面図を用い、文字やピクトグラムを組み合わせ、外国人来訪者等にもわかりやすく伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下のような構成要素を推奨 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>タイトル: 情報種別、発生日時、施設名</p> <p>情報1 : 火災状態</p> <p>情報2 : 状況説明、行動指示</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>タイトル</p> <p>情報1</p> <p>情報2</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>タイトル</p> <p>情報1</p> <p>情報2</p> </div> </div>
<p>【利用を推奨する「JIS Z8210」規格のピクトグラム】</p>		
<p>非常口</p> 	<p>スロープ</p> 	<p>階段</p> 
<p>一般注意</p> 	<p>消火器</p> 	<p>矢印</p> 

44

⑤の3 感知器発報放送時のコンテンツ例

施設利用者への情報提供を想定
(火災等に係る情報や避難誘導するための情報)

表示コンテンツ例	
① 感知器発報放送時(日本語メイン、英語サブ)	② 感知器発報放送時(英語メイン、日本語サブ)
③ 感知器発報放送時(避難経路図パターン1)	④ 感知器発報放送時(避難経路図パターン2)

45

⑤の4 火災放送時のコンテンツ例

施設利用者への情報提供を想定
(火災等に係る情報や避難誘導するための情報)

表示コンテンツ例	
① 火災放送時(日本語メイン、英語サブ)	② 火災放送時(英語メイン、日本語サブ)
③ 火災放送時(避難経路図)	④ 火災放送時(避難方向指示)

46

⑤の5 非火災報放送時等のコンテンツ例

施設利用者への情報提供を想定
(火災等に係る情報や避難誘導するための情報)

非火災報放送時の表示コンテンツ例

① 非火災報放送時(日本語メイン、英語サブ)	② 非火災報放送時(英語メイン、日本語サブ)

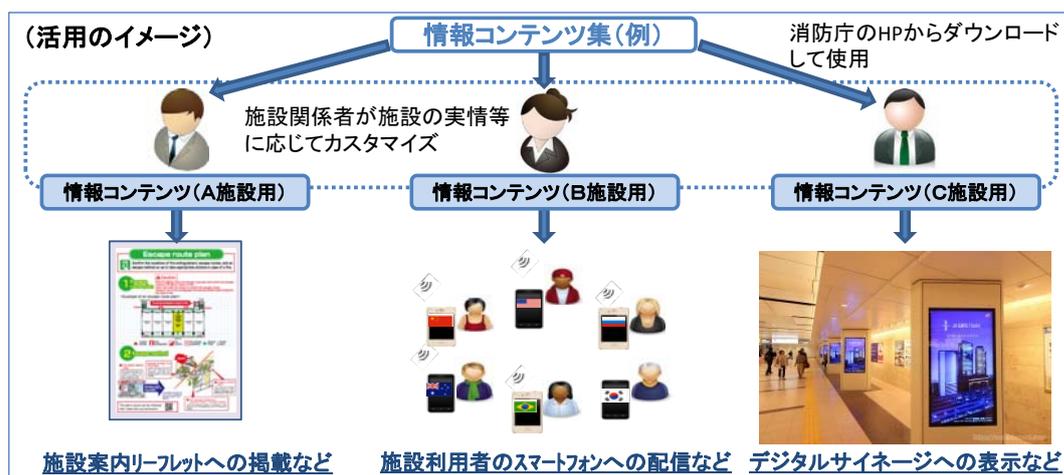
震災時の表示コンテンツ例

① 震災時時(日本語メイン、英語サブ)	② 震災時時(英語メイン、日本語サブ)

47

情報コンテンツ集(例)(その1)

2 施設利用者の方にご理解・ご配慮いただきたい事項 (たたき台)



構成

情報コンテンツ集(例)(その1)

<施設利用者への情報提供を想定(⇒多言語化)>

1 施設に講じられている基本的な防火・防災対策

2 施設利用者の方にご理解・ご配慮いただきたい事項

①異常事態等を発見した際の施設関係者への連絡要領等

②外国人来訪者や障がい者等が周囲にいる場合の情報伝達や避難誘導についてご理解・ご配慮いただきたい事項

3 個別対応を希望する旨の申出方法など

49

①異常事態等を発見した際の施設関係者への連絡要領等

50

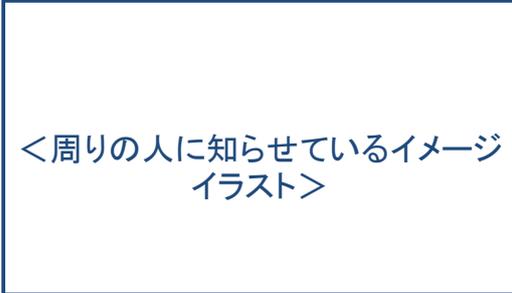
①の1 各施設で共通して想定される 連絡要領等(1/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○火災などの異常事態や倒れている人などを発見した際は、次の方法で、ご連絡ください。

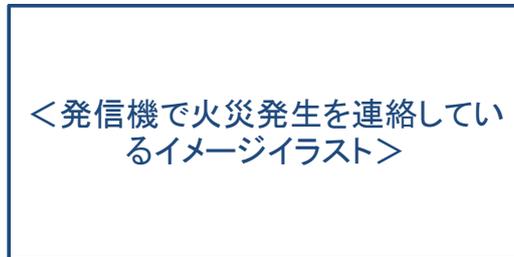
・大きな声で周りの人に知らせる。



・電話番号119番に連絡する。



・(火災の場合)自動火災報知設備の発信機を使用して、火災発生を連絡する。



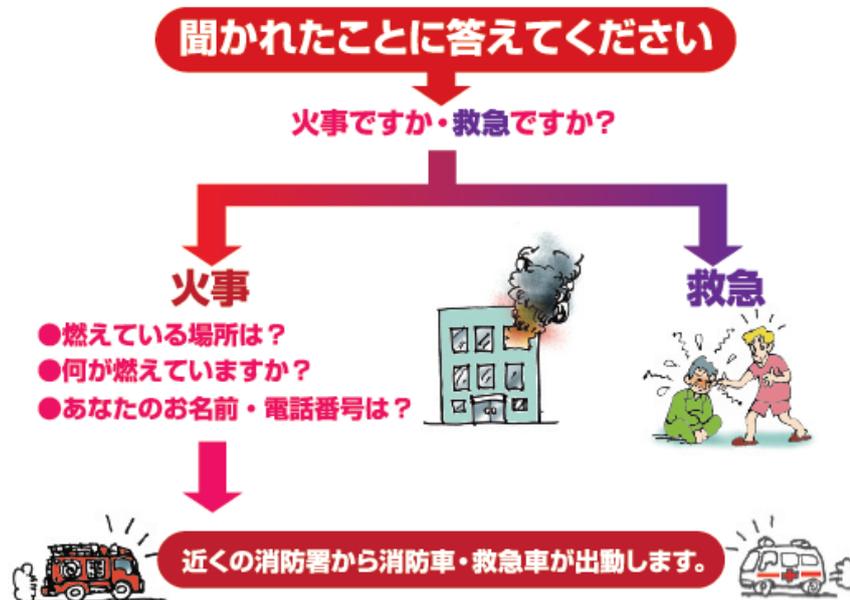
①の1 各施設で共通して想定される 連絡要領等(2/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○119番通報

SOS 火災が発生した場合など緊急時は、すぐに119番通報してください。



①の1 各施設で共通して想定される 連絡要領等(3/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- この施設には、「自動体外式除細動器」(AED)が設置されています。
- 自動体外式除細動器は、心臓に電気ショックを加え、心臓の動きを正常に戻すための器具です。
倒れている方(意識のない方)などに対して、使うことがあります。
- 自動体外式除細動器は、次の場所に設置されています。
※施設におけるAEDの設置場所を記載。
- 自動体外式除細動器は、誰でも使うことができます。
- 自動体外式除細動器は、電源を入れると、自動的に音声メッセージやランプであなたが実施すべきことを指示してくれます。指示に従って、操作・行動してください。
- 倒れている人などを発見した際は、大きな声で周りの人に知らせ、周囲の人に協力を求めてください。

<AEDを使用しているイメージイラスト>

53

①の2 駅で想定される連絡要領(1/3)

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- 駅で、火災などの異常事態や倒れている人などを発見した際は、次の方法で、駅員にご連絡ください。
当施設は、日本語のほか、●●語での対応が可能です。
- ・インターホンを利用して連絡する。

<インターホンで異常事態を連絡
しているイメージイラスト>

54

①の2 駅で想定される連絡要領（2／3）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（協力・行動してもらうための情報）

<多言語翻訳>

- ・直接、近くの駅係員又は警備員に連絡する。

<駅係員に直接連絡しているイ
メージイラスト>

- ・（車内の場合）車内の非常通報装置を利用して乗務員に連絡する。

<非常通報装置で異常事態を連
絡しているイメージイラスト>

55

①の2 駅で想定される連絡要領（3／3）

施設利用者（主として外国人来訪者）への情報提供を想定
（協力・行動してもらうための情報）

<多言語翻訳>

- ・（駅ホームの場合）非常停止ボタンを押して駅係員や乗務員に知らせる。
線路には降りないこと。

<非常停止ボタンを押して駅係員
や乗務員に知らせているイメージ
イラスト>

56

①の3 空港で想定される連絡要領

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○空港で、火災などの異常事態や倒れている人などを発見した際は、直接、近くの空港職員に、又は電話番号119番にご連絡ください。当施設は、日本語のほか、●●語での対応が可能です。

<空港職員に直接、異常事態を連絡しているイメージイラスト>

<空港職員が防災センターに連絡しているイメージイラスト>

57

①の4 競技場で想定される連絡要領

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○競技場で、火災などの異常事態や倒れている人などを発見した際は、次の方法で、係員にご連絡ください。当施設は、日本語のほか、●●語での対応が可能です。

(イベント開催時など)

- ・近くのイベントスタッフやイベント主催者に連絡する。
その場合のイベント主催者の電話番号は、〇〇です。
●●語でご連絡いただく場合の電話番号は、〇〇です。

<イベントスタッフに異常事態を連絡しているイメージイラスト>

<イベント主催者が防災センターに連絡しているイメージイラスト>

(イベント開催時以外など)

- ・防災センターに連絡する。
防災センターは、〇階にあります。
防災センターの電話番号は、〇〇です。
●●語でご連絡いただく場合の電話番号は、〇〇です。

<防災センターに異常事態を連絡しているイメージイラスト>

58

①の5 旅館・ホテル等で想定される連絡要領

施設利用者(主として外国人来訪者)への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○旅館・ホテル等で、火災などの異常事態や倒れている人などを発見した際は、次の方法で、従業員にご連絡ください。

当施設は、日本語のほか、●●語での対応が可能です。

・内線電話を利用してフロントへ連絡する。

火災や地震の際は、内線電話が使用できない場合があります。

<フロントに電話連絡しているイメージイラスト>

・直接、近くの従業員に連絡する。

<ホテルの従業員に直接、連絡しているイメージイラスト>

59

②外国人来訪者や障がい者等が周囲にいる場合の情報伝達や避難誘導についてご理解・ご配慮いただきたい事項

60

②の1 外国人来訪者

施設利用者への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○放送の内容や従業員等からの指示内容を理解できない外国人の方が周囲にいる場合は、情報伝達や避難誘導について、次の事項にご理解・ご配慮ください。

- ・外国語を話せる方は、放送の内容や従業員からの指示内容を理解できていない外国人の方に、その内容を伝えてください。
- ・放送の内容や従業員からの指示内容を理解できた外国人の方は、理解できていない方に、その内容を伝えてください。



施設利用者同士の情報伝達

(東京都防災ホームページより引用)

<イラストはイメージとして仮置き>

61

②の2 視覚・聴覚から情報を入手できない方、車いす使用者など

施設利用者への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

○視覚・聴覚から情報を入手できない方、車いす使用者などが周囲にいる場合は、情報伝達や避難誘導について、次の事項にご理解・ご配慮ください。

- ・視覚・聴覚から情報を入手できない方、車いす使用者などを優先して避難誘導します。ご理解ください。
- ・視覚・聴覚から情報を入手できない方から先に避難誘導します。

(個別対応を希望する旨の申出などにより、車いす使用者の位置を従業員等が把握している場合)

- ・車いす使用者は、従業員等が個別に避難誘導します。車いす使用者はその場においてください。

※ 個別対応のニーズ等の把握については、本資料「3 個別対応を希望する旨の申出方法など」を参照。

- ・当施設には、聴覚・視覚から情報を入手できない方、車いす使用者などがいらっしゃいます。避難の際はご配慮ください。
- ・車いす使用者が周囲にいる場合は、お近くの従業員等にお知らせください。
- ・車いす使用者などの避難にご協力ください。



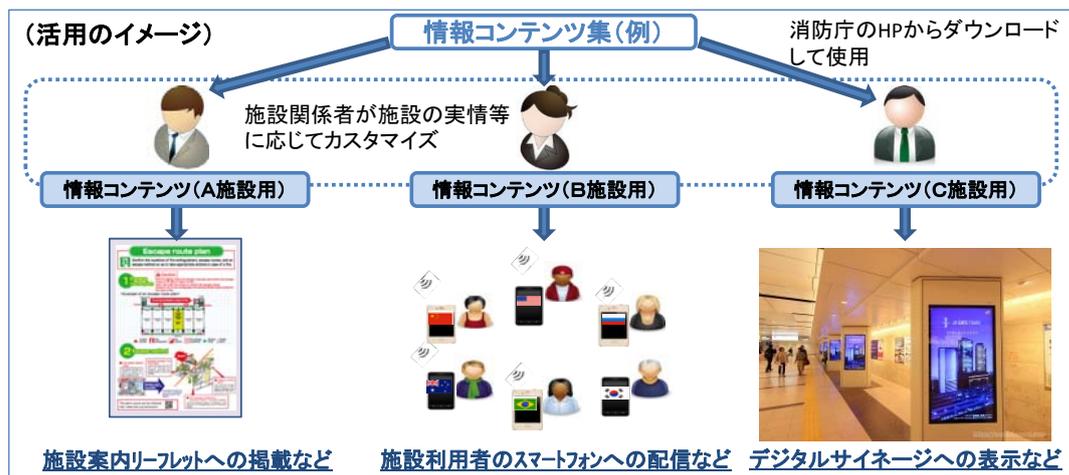
<イラストはイメージとして仮置き>

障がい者などの優先避難、車いす使用者の避難補助 (東京都防災ホームページより引用)

62

情報コンテンツ集(例)(その1)

3 個別対応を希望する旨の申出方法など(たたき台)



55

構成

情報コンテンツ集(例)(その1)

<施設利用者への情報提供を想定(⇒多言語化)>

1 施設に講じられている基本的な防火・防災対策

2 施設利用者の方にご理解・ご配慮いただきたい事項

①異常事態等を発見した際の施設関係者への連絡要領

②外国人来訪者や障がい者等が周囲にいる場合の情報伝達や避難誘導についてご理解・ご配慮いただきたい事項

3 個別対応を希望する旨の申出方法など

64

「(仮)コミュニケーションカード」の作成・提出等(1/3)

施設利用者への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

<多言語翻訳>

- 「(仮)コミュニケーションカード」は、火災や地震が発生した際の個別対応を希望される方と施設従業員等のコミュニケーションを図るためのものです。
- 個別対応を希望される方は、火災や地震が発生した際の連絡方法や配慮してほしい事項などをカードにご記載の上、施設従業員等にご提出・ご提示ください。
- 施設従業員等は、火災や地震が発生した際、(仮)コミュニケーションカードの記載内容を踏まえて、必要なサポートを行います。
- 施設利用中は、(仮)コミュニケーションカード(控え)を忘れずにお持ちいただくようお願いいたします。
- 火災や地震が発生した際の連絡方法や配慮してほしい事項などを記載した「(仮)コミュニケーションカード」の作成にご協力ください。
 - ※ カードは日本語版のほか、外国語/日本語併記版を施設に用意しておくことを想定(外国人で障がいがある方が作成・提出等することを想定)。
- 「(仮)コミュニケーションカード」の用紙は、次の場所に備え付けてあります。
 - ・施設入口
 - ・インフォメーションセンター
 - ・ロビー
 - ・フロント

65

「(仮)コミュニケーションカード」の作成・提出等(2/3)

施設利用者への情報提供を想定
(協力・行動してもらうための情報)

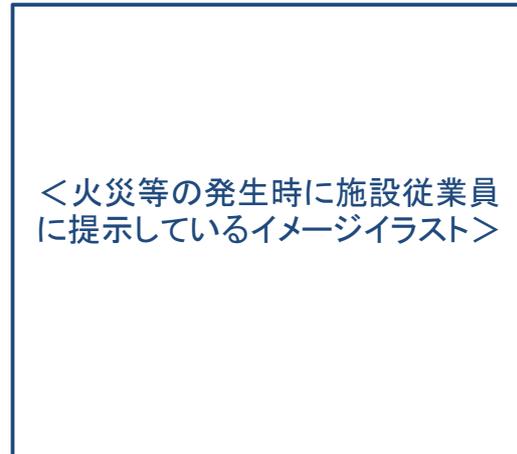
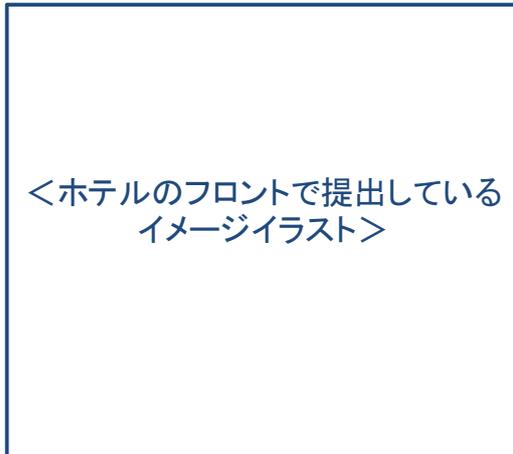
<多言語翻訳>

- 「(仮)コミュニケーションカード」には、次に掲げる事項を記載して下さい。
 - ・火災や地震発生時に必要なサポート内容
 - ・部屋番号や座席番号
 - ・火災や地震が発生した際の連絡方法や希望するコミュニケーション方法
 - ・その他火災や地震が発生した際に配慮してほしい事項 など
- 当施設では、障がいのある方に対する火災や地震発生時の情報伝達や避難誘導のため、次の対策を講じています。
 - 「(仮)コミュニケーションカード」の記載にあたって、参考としてください。
 - ※ 施設で講じている対策を併せて掲載等することを想定。
- 「(仮)コミュニケーションカード」は、次の方法によりご提出・ご提示ください。
 - ※ 施設側で、受付可能な方法から、当該施設の実情に応じて選択することを想定。
 - ・従業員にご提出ください。
 - ・郵送によりご提出いただけます。
 - ・ファクシミリ送信によりご提出いただけます。
 - ・メールによりご提出いただけます。
 - ・●●のホームページの入力フォームでご登録いただけます。

66

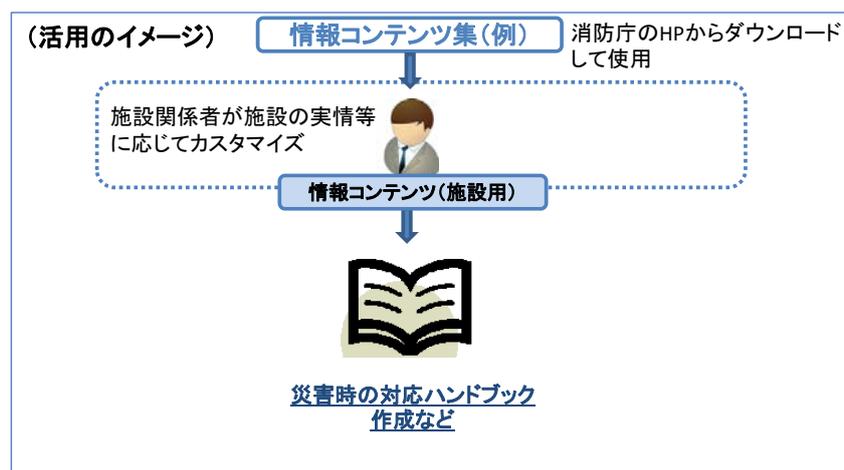
○「(仮)コミュニケーションカード」は、施設を利用する際に従業員にご提出ください。

○「(仮)コミュニケーションカード」は、火災や地震が発生した際にご提示ください。



情報コンテンツ集(例)(その2)

1 外国人来訪者や障がい者等の特性に応じた留意事項など(たたき台)



構成

情報コンテンツ集(例)(その2)

1 外国人来訪者や障がい者等の特性に応じた留意事項など

(母語で情報伝達ができない場合における)

①外国人来訪者への情報伝達の方法

②障がいなど様々な特性がある方への情報伝達・避難誘導の際の留意事項

69

(母語で情報伝達ができない場合における)

①外国人来訪者への情報伝達の方法

70

①の1 「やさしい日本語」とは(1/2)

○ 「やさしい日本語」とは、災害が起きたときに「やさしい日本語」を使った音声で、日本語に不慣れな外国人を安全な場所へ誘導する日本語のことです。

また、避難先では、避難生活で必要になる情報を「やさしい日本語」で書かれた掲示物で伝えることも目的にしています。行政やボランティア団体による外国語支援が始まるまでの、概ね72時間の情報伝達を目的とした災害時用の外国人被災者のための日本語です。

○ この「やさしい日本語」は、日本語学習者が初期の段階で学ぶ約2000の語彙と、単文を主とした単純な構造からできていますので、日本語を学習しはじめた外国人でも、災害時に適切な行動が取れる表現になっています。

ちょうど日本語能力検定試験の3、4級の日本語に相当します。日本語能力検定3、4級程度とは、友人と待ち合わせ(時間や場所を決める)ができたり、自分の欲しいものを説明して買い物ができたりする程度の能力のことです。

日本語に不慣れな外国人にも確実に情報を伝えるためには、彼らの母語で伝えることが最も有効です。しかし、母語で伝えるといっても彼らの国籍は様々であり、また使用している言語も多様です。災害時には、重要な情報はたくさんあり、そのすべてを多言語に言い換えることは難しく、時間もかかります。また、日本に来ている外国人は母語が英語の人ばかりではありません。そのため、英語のみに依存すると、母語が英語でない外国人に避難情報や生活支援情報などが的確に伝わらなくなり、その結果多くの外国人を救うことが難しくなります。

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用) 71

①の1 「やさしい日本語」とは(2/2)

実際のラジオ放送の一例

【普通の日本語】

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。

大きな地震のあとには必ず余震があります。

引き続き厳重に注意してください。



【「やさしい日本語」】

今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が ありました。

大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。

気をつけて ください。

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用) 72

①の2 「やさしい日本語」作成ルール(1/3)

○難しいことばを避け、簡単な語彙を使ってください。

語彙は日本語能力試験出題基準3、4級(最も初級)の語を使います。日本語能力試験3、4級程度とは、友人と待ち合わせ(時間や場所を決める)ができたり、自分のほしいものを説明して買い物ができたりする程度の能力のことです。

・助詞の使い方 方向を表す場合は「へ」を用いてください。

例: 川に 行かないで ください ⇒ 川へ 行かないで ください

○1文を短くして、文の構造を簡単にしてください。

1文の長さは24拍程度です。長くなっても30拍を越えないようにしてください。

1拍は平仮名1文字に相当します。例えば「余震」は「よしん」なので3拍となります。文節の数は10文節程度を目安にしてください。

・主語と述語を一組だけ含む文にしてください。

例: 余震が起きるおそれもあるため、余震に対して十分に注意して下さい

⇒ 余震(後から 来る 地震)に 気をつけて ください

・連体修飾節(名詞を説明している部分)の構造を単純にしてください。

例: 地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物

⇒ 地震で 壊れた 建物

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用)

73

①の2 「やさしい日本語」作成ルール(2/3)

○外来語を使用するときは気をつけてください。

外来語は原語と意味や発音の異なるものが多いため、使用するときは注意してください。

例: ダイヤル ⇒ 原語とは発音が全く異なります。

ライフライン ⇒ 原語とは意味が異なります。

デマ ⇒ 原語では行われたい省略です。

○動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください。

例: 揺れがあった ⇒ 揺れた

↑
「揺れ」は名詞

↑
「揺れる」は動詞

○二重否定の表現は避けてください。

例: 通れないことはない ⇒ 通ることが できます

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用)

74

①の2 「やさしい日本語」作成ルール (3/3)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○文末表現はなるべく統一するようにしてください。

①可能 「することができます」

例: 火を使えます ⇒ 火を 使うことが できます
燃えるゴミ ⇒ 燃やすことが できる ゴミ

また、不可能表現は、「することができません」としてください。

例: 電話は使えません ⇒ 電話を 使うことが できません

②指示 「～てください」

例: 手を洗いましょう ⇒ 手を 洗って ください

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用) 75

①の3 「やさしい日本語」の読み言葉の注意点

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○読み方は、全体的にゆっくりと、一語一語はつきり発音してください。

○文節の切れ目や、文と文の間にポーズを入れて読んでください。

○いつ(時間)、どこで(場所)、だれが、何をする、「・・・してください」、「・・・に注意してください」などは、くりかえし言って、強調してください。

○数字の読み方は下の表を基本とします。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ゼロ	イチ	ニ	サン	ヨン	ゴ	ロク	ナナ	ハチ	キュウ	ジュウ

○カタカナ外来語を使わないでください。使うときはその語の概念も説明します。

○1文は1情報としてください。

(『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』より引用) 76

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト（1／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

【ガイドラインの対象とする情報伝達・避難誘導の範囲(内容)に関連するもの】

(ア)	
慌てて逃げない	①歩いていく、②よく調べてから逃げる
慌てない	落ち着く
安否(を確認する)	大丈夫かどうか(を聞く、調べる)
(イ)	
生き埋め	壊れた建物の下にいて動けない人
医師	医者
意識がなく、呼吸や心臓が止まっている	命が危ない、呼んでも応えない、息がない、心臓がとまっている
一部破損する	少し壊れる
医薬品	薬
医療	(医者が)病気・ケガを治すこと、手当てをすること
引火する	火がつく

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用)

77

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト（2／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ウ)	
迂回する	違う道に行く
(エ)	
炎上する	燃える
(オ)	
応急処置	簡単な手当
覆う	つける、あてる
大声で	大きな声で
多くの	たくさんの
おびえる	怖がる

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用)

78

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト (3/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(カ)	
懐中電灯	懐中電灯<手に持つ電灯>
確認する	確かめる、よく見る
火災	火事
かなり	とても

(キ)	
キー	鍵
危険	危ない
危険箇所	危ないところ
傷口	ケガをしているところ
犠牲者	死んだ人、ケガをした人
貴重品	大切なもの、大事なもの

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 79

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト (4/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(キ)	
救援する	助ける
救急救命処置	人工呼吸、心臓マッサージ
救急車	救急車<病気・ケガをした人を助ける車>
救急用品	病気・ケガを治すもの
救助	助ける
緊急時	助けが必要なとき、とても危ないとき
近所	近く

(ク)	
崩れる	①壊れる 用例:建物が崩れる⇒建物が壊れる ②崩れる 用例:崖が崩れる⇒崖<山の急なところ>が崩れる
詳しい情報がわかる	わからないことを聞くことができる、いろいろな情報がわかる

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 80

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト(5/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ケ)	
警戒する	気をつける
軽傷	小さいケガ
怪我人	ケガをした人
現在	今

(コ)	
呼吸	息
骨折する	骨が折れる

(サ)	
殺到する	人が急にたくさん来ること
妨げ	じゃま

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 81

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト(6/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(シ)	
死者	死んだ人
指定された	決められた、決まった
死亡する	死んでいる
周囲の状況	周りのようす
重症	大きいケガをした
重体	命が危ない
渋滞する	混んでいる
集団で	(みんなで)一緒に
集中する	①たくさんある 用例:水が集中している⇒水がたくさんある ②たくさん～している 用例:人が集中している⇒人がたくさん集まっている

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 82

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト（7／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(シ)	
出火	火が出る
出血がひどい	血がたくさん出る
使用不能	使うことができない
消火する	火を消す
情報	お知らせ、～のこと
消防車	消防車<火を消す車>
震源地	地震の中心
身体に障がいのある人	体の不自由な人
震度	震度<地震の大きさ>

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用） 83

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト（8／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ス)	
全て	全部
すみやかに	すぐに
擦り傷	小さいケガ
(ソ)	
添え木	まっすぐな硬い板
備える	用意する
(タ)	
大規模	大きい
高い所に物を置かない	物を下に置く
ただちに	すぐに
溜め置き	用意する
垂れ下がった電線	切れた電線

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用） 84

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト (9/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(チ)	
近寄る	近くに行く
注意する	気をつける
中央	真ん中

(ツ)	
通訳	通訳<外国語のわかる人>
伝える	知らせる、教える
津波	津波<とても高い波>

(テ)	
停電する	停電する、電気を使うことができない、電気が止まる
デマ	うその話
点検する	よく見る

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用)

85

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト (10/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ト)	
問い合わせる	質問する
倒壊する	壊れる
到着する	着く
閉じ込められる	外に出られない、外に出られなくなる
隣近所	近く
徒歩で	歩いて

(ナ)	
亡くなる	死ぬ

(ハ)	
半壊した	半分壊れた

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用)

86

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト（11／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ヒ)	
控える	できるだけ～しない
火がつきやすい	燃えやすい
引き返す	戻る、帰る
左側	左
避難所	避難所<逃げるところ>
避難する	避難する<逃げる>

(フ)	
不通	動いていない、使うことができない、通ることができない
ブレーカーを切る	ブレーカーを切る<電気がつかないようにする>
触れる	触る

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用） 87

①の4「やさしい日本語」の言い換えリスト（12／13）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ホ)	
保護する	守る

(ミ)	
身軽な	動きやすい
身の安全を確保する	自分の体を守る

(ユ)	
行方不明	どこにいるかわからない人
揺れ	地震

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用） 88

①の4 「やさしい日本語」の言い換えリスト (13/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

(ヨ)	
余震	余震<あとから来る地震>
(ラ)	
落下物	上から落ちてくるもの
(リ)	
両腕で抱え込む	強く抱く
(その他)	
～に関する	～についての
～付近	～の近く

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 89

①の5 火災発生時の「やさしい日本語」の案文 (1/4)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

【ガイドラインの対象とする情報伝達・避難誘導の範囲(内容)に関連するもの】

「やさしい日本語」案文	内容
・ここで、外国人のみなさんにお伝えします。	外国人
・こちらは●●です。	情報提供
・避難するとき、正しいお知らせを聞いて動いてください。 逃げるとき、正しいお知らせを聞いて動いてください。	デマ
・今、[]の近くで、火事です([]が燃えています)。 ・〇カ所がまだ火事です。〇カ所がまだ燃えています。	火災
・避難する準備をしてください。逃げる準備をしてください。 ・避難するとき、気をつけることを言います。逃げるとき、 気をつけることを言います。	避難指示
・避難するとき、歩いてください。逃げるとき、歩いてください。	

(「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用) 90

①の5 火災発生時の「やさしい日本語」の案文（2／4）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

「やさしい日本語」案文	内容
・みんなと(で)一緒に避難してください。みんなと(で)一緒に逃げてください。	避難指示
・近くの人と一緒に避難してください。近くの人と一緒に逃げてください。	
・避難場所がわからない人は、近くの人に聞いてください。 逃げるところがわからない人は、近くの人に聞いてください。	
・エレベーターを使わないでください。停電になると、エレベーターから出られなくなることがあります。電気が止まると、エレベーターから出られなくなることがあります。	
・周りをよく見てください。危ないところに行かないでください。	周辺注意
・懐中電灯を使ってください。手に持つ電灯を使ってください。	避難指示
・ケガに気をつけてください。	
・ケガをした人は、大きい声で近くの人を呼んでください。	救援
・ケガをした人がいたら、大きい声で近くの人を呼んでください。	

91

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の5 火災発生時の「やさしい日本語」の案文（3／4）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

「やさしい日本語」案文	内容
・近くでケガをしている人はいませんか。ケガをしている人がいたら、応急処置をしてください。ケガの手当てをしてください。	応急処置
・ケガをしたとき、水で洗ってください。	
・ケガを消毒して、布で押さえてください。	
・やけどは水で冷やしてください。冷やしたあと、きれいな布で守ってください。	
・倒れて息をしていない人、心臓が止まっている人がいたら、助けてください。すぐに119番に電話をしてください。救急車が来るまで、人工呼吸をしてください。心臓マッサージをしてください。※	救援
・みんなで声を掛けあってください。大丈夫か聞いてください。	
・近くで困っている人はいませんか。みんなで助けてください。	
・お年寄りや子供の手を強く握ってください。赤ちゃんを強く抱いてください。大丈夫だと言ってください。	

※人工呼吸は、講習を受けて技術を身につけていて、意思がある場合に心臓マッサージと組み合わせます。人工呼吸のやり方に自信がない場合や、直接接触することためらいがある場合は、心臓マッサージだけを続けてください。（「救急蘇生法の指針2015」より引用）

92

（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の5 火災発生時の「やさしい日本語」の案文（4／4）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

「やさしい日本語」案文	内容
・お年寄り、小さい子供、体の不自由な人たちは大丈夫ですか。 声を掛けてください。	救援
・日本語のわからない人は[]に行ってください。	外国人
・通訳、外国語のわかる人が[]にいます。	

93
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（1／9）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

【ガイドラインの対象とする情報伝達・避難誘導の範囲（内容）に関連するもの】

「やさしい日本語」案文	内容
・緊急地震速報 地震のお知らせ 大きい地震がきます（大きく動きます）頭を守ってください ○○県、○○県、○○県に大きい地震が来ます	緊急地震速報
・地震がきます 頭を守ってください	
・もうすぐ大きい地震がきます	
・あと○秒で大きい地震がきます	
・大きい地震がきます	
・“地震がきます <u>とても大きい地震です</u> ※震度の大きさに応じて下線部分を変更（震度1～2の場合）小さい 地震です （震度3～4の場合）大きい 地震です（震度5弱以上の場合）とても 大きい 地震です”	
・地震はきません 安心してください	
・びっくりしないでください	
・地震が止まるまで頭を守ってください	

94
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（2／9）

「やさしい日本語」案文	内容
・頭を守ってください	緊急地震速報
・上から物が落ちます 頭を守ってください	
・物が倒れます 気をつけてください	
・物が落ちるところから離れてください。物が倒れるところから離れてください	
・エレベーターを止めてください。エレベーターからすぐに出てください	情報提供
・こちらは●●です。	
・今から、地震についてお伝えします。	地震
・地震はとまりました。落ち着いてください。	
・頭の上に気をつけてください。	周辺注意
・倒れやすいものに気をつけてください。	
・まず、自分の体を守ってください。	避難指示
・外は危ないかも知れません。外をよく見てから逃げてください。	

95
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（3／9）

「やさしい日本語」案文	内容
・外が安全なとき、外に出てください。	避難指示
・避難するとき、歩いてください。逃げるとき、歩いてください。	
・●●は、地震について新しいお知らせがあるとき、すぐお伝えします。	情報提供
・火は消えていますか。もう一度確かめてください。	火災
・タバコを吸わないでください。	
・火事に気をつけてください。	
・火が出たら、すぐ火を消してください。	
・ドアや窓を開けてください。逃げるための出口を作ってください。	避難指示
・エレベーターを使わないでください。停電や余震があると、エレベーターから出られなくなることがあります。電気が止まったり、あとから来る地震が起きたりすると、エレベーターから出られなくなることがあります。	

96
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（4／9）

「やさしい日本語」案文	内容
・これから余震が起きるかもしれません。これから、あとから来る地震が起きるかもしれません。	余震
・余震に気をつけてください。あとから来る地震に気をつけてください。	
・割れたガラスや皿などに気をつけてください。	周辺注意
・ケガをした人がいたら、大きい声で近くの人を呼んでください。	救援
・近くで困っている人はいませんか。みんなで助けてください。	
・壊れた建物や家具に気をつけてください。	周辺注意
・自動販売機に気をつけてください。倒れるかもしれません。自動販売機の近くに行かないでください。	
・切れた電線に触らないでください。	
・お年寄りや子供の手を強く握ってください。赤ちゃんを強く抱いてください。大丈夫だと言ってください。	救援
・今日、【午前・午後】00:00頃、[]で地震がありました。	地震

97
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（5／9）

「やさしい日本語」案文	内容
・津波に気をつけてください。高い波に気をつけてください。	津波
・この地震で津波はありません。この地震で高い波はありません。	津波がないとき
・この地震で津波が来るかどうかはわかりません。この地震で高い波が来るかどうかはわかりません。	津波があるかわからないとき
・震源地は[]です。地震の中心は[]です。	地震
・震源の深さは〇キロです。	
・地震の強さを示すマグニチュードは〇です。	
・[]で震度〇です。	
・地震は止まりました。	火災
・火を使うと危険です。火事になるかもしれません。懐中電灯を使ってください。手に持つ電灯を使ってください。	
・ケガをした人は、大きい声で近くの人を呼んでください。	
・お年寄り、小さい子供、体の不自由な人たちは大丈夫ですか。声を掛けてください。	救援

98
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（6／9）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

「やさしい日本語」案文	内容
・周りをよく見てください。危ないところに行かないでください。	周辺注意
・避難する準備をしてください。逃げる準備をしてください。	避難指示
・うその話を信じないでください。	デマ
・●●が正しいお知らせをします。	
・避難するとき、正しいお知らせを聞いて動いてください。逃げる とき、正しいお知らせを聞いて動いてください。	
・火事が近いとき、避難してください。火事が近いとき、避難してく ださい。	避難指示
・避難するとき、気をつけることを言います。逃げるとき、気をつ けることを言います。	
・持ち物は全部リュックサックに入れてください。手には何も持た ないでください。	
・動きやすい服を着てください。	
・みんなで声を掛けあってください。大丈夫か聞いてください。	救援

99
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（7／9）

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

「やさしい日本語」案文	内容
・近くの人と一緒に避難してください。近くの人と一緒に逃げてく ださい。	避難指示
・決められた避難場所、近くの公園、安全な建物に避難してくださ い。決められた逃げるところ、近くの公園、安全な建物に逃げて ください。	
・避難場所がわからない人は、近くの人に聞いてください。逃げる ところがわからない人は、近くの人に聞いてください。	
・倒れそうなものに気をつけてください。	周辺注意
・頭の上にあるもの、タンスなど大きい家具に気をつけてください。	
・近くでケガをしている人はいませんか。ケガをしている人がいた ら、応急処置をしてください。ケガの手当てをしてください。	応急処置
・ケガをしたとき、水で洗ってください。	
・ケガを消毒して、布で押さえてください。	

100
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（8／9）

「やさしい日本語」案文	内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・骨が折れたときは、添え木を当ててください。まっすぐな硬い板などを当ててください。動かさないでください。まっすぐな硬い板と体の間にタオルを入れてください。 ・やけどは水で冷やしてください。冷やしたあと、きれいな布で守ってください。 ・倒れて息をしていない人、心臓が止まっている人がいたら、助けてください。すぐに119番に電話をしてください。救急車が来るまで、人工呼吸をしてください。心臓マッサージをしてください。※ 	応急処置	
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと(で)一緒に避難してください。みんなと(で)一緒に逃げてください。 ・荷物は少なくしてください。 ・ケガに気をつけてください。 ・危ないところに行かないでください。 		避難指示

※人工呼吸は、講習を受けて技術を身につけていて、意思がある場合に心臓マッサージと組み合わせます。人工呼吸のやり方に自信がない場合や、直接接触することにためらいがある場合は、心臓マッサージだけを続けてください。（「救急蘇生法の指針2015」より引用）

101
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

①の6 地震発生時の「やさしい日本語」の案文（9／9）

「やさしい日本語」案文	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・消防車、救急車は電話で呼んでください。火を消す車、病気・ケガをした人を助ける車は電話で呼んでください 	電話
<ul style="list-style-type: none"> ・今、[]の近くで、火事です（[]が燃えています）。 ・〇カ所がまだ火事です。〇カ所がまだ燃えています。 	火災
<ul style="list-style-type: none"> ・[]で電話を使うことができません。 	電話
<ul style="list-style-type: none"> ・ここで、外国人のみなさんにお伝えします。 ・日本語のわからない人は[]に行ってください。 ・通訳、外国語のわかる人が[]にいます。 	外国人
<ul style="list-style-type: none"> ・今日、【午前・午後】00:00頃、[]で余震がありました。 ・今日、【午前・午後】00:00頃、[]であとからくる地震がありました。 	余震

102
（「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」より引用）

②障がいなど様々な特性がある方への 情報伝達・避難誘導の際の留意事項

103

②の1 障がいなど様々な特性がある方への情報伝達・避難 誘導(サポートを含む。)を行う際の基本的な考え方

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

＜「クライアント」を「施設利用者」と読み替えて、施設側で活用することを想定＞★

○ニーズ・要望の把握★

障がいなど様々な特性がある方に声をかけて、ニーズ・要望を把握し、特性に配慮した情報伝達・避難誘導を行うようにしましょう。

○緊急時の対応★

平常時のサポートと異なり、火災や地震が発生した際の緊急時の情報伝達や避難誘導は、人命安全の確保の観点で行います。

情報伝達や避難誘導を受ける方とのコミュニケーションを図り、状況に応じて対応することが重要です。

○クライアントに話しかける

クライアントに手話通訳者や同伴者がいる場合でも、クライアントの人格を尊重し、お手伝いが必要かクライアントに確認します。また、会話を始めるときには、自分の担当業務と名前を名乗るようにしましょう。

○柔軟な対応を心がけ、スタッフで協力する

さまざまな場面を想定し、基本的なサポートの方法を身につけると共に、予期せぬ事態に備えた応用力を磨くようにします。また、自分だけでは対応が難しいようなサポートを求められた場合は、無理せず他のスタッフと協力して対応します。

○誘導中、してはいけないこと

- ・白杖に触れてはいけない

白杖は目の代わりとなるものです。原則として、掴んだり引っ張ったりしてはいけません。



白杖をつかんだり、引っ張ったりしてはいけません。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

○誘導中、してはいけないこと(つづき)

- ・手を引っ張っての誘導はしない

手を引っ張ることは、クライアントの動きを強制することになり、不安や高圧感を与えます。また、直接肌に触れることがクライアントに不快感を与えます。

- ・クライアントの後ろで誘導しない

介助者からも足元が見えにくいですし、危険な場所に押し出されているのではと不安になってしまいます。クライアントは誘導者の動きで一步先の状況や空間を感じて歩いていますから、誘導者が後ろに立った状態では、進むのが怖くて歩くことを躊躇します。

- ・斜め歩きや斜め昇降をしない

絶えず歩いている方向(角度)を意識できるように、斜め歩きや斜め昇降をせず進行方向に向かってまっすぐ歩くようにします。特に段差などの場合は、直角に向かうようにします。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

○誘導の基本姿勢

- ・横半歩手前に立ちます。
- ・クライアントに肘か肩をつかんでもらいます。
- ・横半歩手前をクライアントのペースに合わせて歩きます。
曲がる地点など状況が変化する場所ではその都度伝えます。



[誘導の基本姿勢]

- ・横半歩手前に立ちます
- ・クライアントに肘か肩をつかんでもらいます
- ・横半歩手前をクライアントのペースに合わせて歩きます。
曲がる地点など状況が変化する場所ではその都度伝えます。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

107

○誘導の基本姿勢(つづき)

※クライアントから離れる必要がある場合

誘導中にクライアントから離れるときは、壁、柱の近くに誘導し、クライアントが触れていない側の手で壁や柱に触れてもらうようにして「ここに壁(柱)があります」と伝えてから「・・・してきます。ここで少し待っててください。」などと声をかけて、クライアントが位置を確認してから離れます。座っている場合でも隣からいなくなる際は、必ず席を外すことを伝えてください。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

108

○狭い場所の通り抜け方法

- (1)狭い場所を通ることを伝えます。
- (2)クライアントがあなたの真後ろに移動します。
- (3)前後の位置関係を保ちながら狭い場所を通過します。



※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

○階段を上る際の誘導方法

- ・上がり始める前に階段の始まりを理解してもらいます。「上がります。」と声をかけて上がり始めます。



- ・クライアントのペースを確認しながら上がります。あなたが一段上を先行し、足元に注意しながら上がります。



※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

②の2 視覚障がいの方(避難誘導に関連する事項)(7/9)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○階段を上る際の誘導方法(つづき)

- ・タイミングよく階段が終わることを伝えます。



※「段差」も「一段の階段」として、階段同様に誘導してください。段差がある所に来たら、段差があるので、いったん止まり「上り(下り)の段差があります。」と情報を伝えるようにします。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

111

②の2 視覚障がいの方(避難誘導に関連する事項)(8/9)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○階段を降りる際の誘導方法

- ・下り始める前に階段の始まりを確認してもらいます。「下りていいですか?」と声をかけて下り始めます。



- ・クライアントのペースを確認しながら下ります。あなたが一段下を先行し、足元に注意しながら下ります。



※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

112

②の2 視覚障がいの方(避難誘導に関連する事項)(9/9)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○階段を降りる際の誘導方法(つづき)

・タイミングよく階段が終わることを伝えます。



※「段差」も「一段の階段」として、階段同様に誘導してください。段差がある所に来たら、段差があるのでいったん止まり「上り(下り)の段差があります。」と情報を伝えるようにします。

※ 「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

113

②の3 聴覚障がいの方(情報伝達に関連する事項)(1/4)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○クライアントの正面に立ちます

いずれの方法でコミュニケーションをする場合であっても、お互いの表情や口元、身振り、手振りがよく見えるよう、クライアントの正面に立つことから始めます。表情が見えるように相手から見て逆光にならないよう、また、複数の人が同時に話しかけるような状況を作らないようにします。

○まずは、ゆっくりめに話しかけ、身振り手振りで対応します

普通の大きさの声で、口をはっきりと開けて、話しましょう。必要に応じて、身振り手振りも加えてください。

○伝わりにくいときには、繰り返し話してください★

クライアントが聞き取れない可能性があるので、繰り返し話します。避難が必要な場合は、そのことをはっきりと、繰り返し伝えましょう。

※ ★無きは「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

114

②の3 聴覚障がいの方(情報伝達関連する事項)(2/4)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○聞き取りにくいときには、繰り返し聞いてください

クライアントの言葉が不明瞭で聞き取りにくい場合には、わかったふりをせずに、聞き返して確認するようにしましょう。

○通じにくいようであれば、筆談をお願いします

聞き返してもわからない場合は、筆談に切り替えます。その際は、「筆談をお願いします」と伝えましょう。

○普通の声で、ゆっくり、はっきり、文節を区切って

必要以上に大きな声を出すことはありません。
一気に話さずに、少しゆっくりと、言葉を区切りながら話してください。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

115

②の3 聴覚障がいの方(情報伝達に関連する事項)(3/4)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○言葉は異なっても口の動きが同じになる単語もあります

〈例〉いす と いぬ、おじいさん と おにいさん、たまご と タバコ、
七(しち) と 一(いち)

こういう場合には、ジェスチャーをつけたり、指で自身の手のひらに単語をなぞって示したり、単語を携帯しているメモ帳に書きながら説明しましょう。

また、伝えた後は、伝わったかどうか確認するようにしましょう。

○筆談のポイント

・要旨だけを、簡単にまとめて

一字一句ていねいに手紙のように書くより、必要なことだけを簡潔に書くようにした方が、スムーズにコミュニケーションできます。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

116

②の3 聴覚障がいの方(情報伝達に関連する事項)(4/4)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○筆談のポイント(つづき)

・漢字を適切に使って、意味がわかるように

聴覚に障がいがある方の中には日本語文法の習得が不十分な方もいます。難しい言葉は避けるようにしますが、ひらがなばかりでも、かえって意味がわかりにくくなります。表意文字である漢字を適切に使うと、読めなくても意味が通じやすくなります。

※すべての方が筆談できるわけでは、ありません。

聴覚や音声に障がいのある方の中には、手話言語は習得しているが、音声言語としての日本語文法や文字習得が不十分なため、筆談ができないという方もいます。そのために、筆談でよいかどうかを事前に確かめる必要があります。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

117

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (1/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○移動に際しての確認について

移動を始める前に、姿勢を確認します。きちんと座っていないと坂道や段差などでずり落ちる危険性があります。また、ずっと同じ姿勢でいると、疲れたり、おしりが痛くなってしまうことを理解しておきましょう。

○手動式車いすの押し方・ブレーキのかけ方

(1)あなたの重心を安定させます

車いすの後ろから両手でハンドグリップを握り、基本的に足を左右あるいは前後に開いて重心を低く置きます。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

118

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (2/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○手動式車いすの押し方・ブレーキのかけ方(つづき)

(2)クライアントに声をかけながら押します

「動きます」「前に進みます」などと声をかけ、からだ全体で押すようにします。

(3)周囲に注意しながら、ゆっくり進みます

曲がり角やカーブのある場所などでは、先をしっかりと確認しながら移動します。また、混雑しているような場合は、他の人にフットサポートが当たらないよう注意しながら進みましょう。

(4)止まるとき、曲がるときにも声をかけます

後退するときも含め、新たな動きをするときには声をかけるようにすると、クライアントは心の準備ができて安心です。



(2)クライアントに声をかけながら押します

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

119

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (3/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○手動式車いすの押し方・ブレーキのかけ方(つづき)

(5)ブレーキ(ストッパー)は、左右両方にかけます

少しでも車いすを離れるときは、必ず両側のブレーキ(ストッパー)をかけるようにします。ブレーキをかけるときは、車いすの背面から側面にかけて立ち、片手でハンドグリップを握りながら、もう一方の手でブレーキをかけます。反対側もハンドグリップを放すことなく、ブレーキをかけます。

※電動車いすの中には、手動と同じように押せるものもあります。取扱いについてはクライアントに確認してください。



(5)ブレーキは左右両方にかけます

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

120

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (4/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○キャスターの上げ方と移動

段差や溝などを越える際の基本となる動きで、でこぼこ道や砂利道を通る際、緊急避難時における走行にも活かされますので、しっかりと習得してください。

(1)ティッピングバーを踏み、同時にハンドグリップを下げます。まず、「キャスターを上げます」と声をかけます。ひと呼吸おいてティッピングバーを踏むと同時にハンドグリップを下げます。膝と腰を軽く曲げてバランスを保つようにしてください。クライアントに不安を感じさせないように手早く操作してください。



(1)ティッピングバーを踏み、同時にハンドグリップを下げます

※キャスターの上げの際には、声をかけることを忘れずに。クライアントは心の準備と共に、アームレストにつかまったり、背もたれによりかかるなどの安全確保ができますので、声かけは必ず行って下さい。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

121

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (5/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○キャスターの上げ方と移動(つづき)

(2)キャスターを浮かして後輪(大車輪)だけで移動します。ぶらつかないよう、膝と腰を軽く曲げて後輪のバランスを取りましょう。

※雨天時の注意事項

雨天時に段差等乗り越えるときは、車いす同伴者も滑りやすいため、段差等の前で一度車いすをとめ、安定した場所でキャスター上げを行って下さい。その際、車いす使用者が車いすから転倒することの無いように気をつけてください。



(2)キャスターを浮かして後輪で移動します

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

122

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (6/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○段差の上り方

(1)ひと声かけて、キャスター上げを行います

「段差がありますので前を少し上げます」などと声をかけ、キャスター上げを行います。キャスター上げについては、前述の[キャスターの上げ方と移動]の項目を参照してください。

※段差を越える場合は車いすを前向きにして段差を越えることが一般的ですが、「どちら向きで段差を越えるのがいいですか」などと声をかけて、クライアントの意向を確認します。



(1)ひと声かけて、キャスター上げを行います

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

123

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (7/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○段差の上り方(つづき)

(2)キャスターを段の上に乗せます

キャスター上げの状態ですくりに前を進み、キャスターを段の上に乗せます。



(2)キャスターを段の上に乗せます

(3)後輪(大車輪)をゆっくり押し上げます

さらに前進し、後輪(大車輪)が段差に触れて止まったところで、ハンドグリップを上げて車体を持ちながら、前に押し出します。一連の操作はできるだけ衝撃を与えないよう、気をつけて行いましょう。



(3)後輪(大車輪)をゆっくり押し上げます

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

124

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (8/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○段差の下り方

(1)ひと声かけて、後ろ向きになります

下りるときは、後ろ向きになって、後輪(大車輪)から下りる方法が一般的です。「段差を下りますので後ろ向きに進みます」と声をかけます。

(2)後輪からゆっくりと下します

ハンドグリップを持ち上げるようにして、ゆっくりと静かに後輪を下します。



(1)ひと声かけて、後ろ向きになります

(2)キャスターを段の上に乗せます

※前向きに下りる方法もありますが、基本的には後ろ向きで下りるようにします。前向きに下りる際にもキャスター上げを行います。後輪(大車輪)の左右が同時に段から下りるように注意しなければなりませんし、それには技術と力が必要です。どうしても前向きで下りたいというクライアントは別として、基本的に段差を下りるときは後ろ向きで行うようにします。

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

125

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (9/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○段差の下り方(つづき)

(3)キャスター上げを行い、後ろに引きます

フットサポートとクライアントのつま先が段差に当たらないように気をつけながら、キャスター上げを行い、車いすをゆっくりと後退させます。



(3)キャスター上げを行い、後ろに引きます

(4)キャスターを下します

クライアントに衝撃を与えないよう気をつけながら、キャスターを下します。このときも「一段下がります。」などの声かけをしてください。



(4)キャスターを下します

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

126

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (10/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○溝の越え方

キャスターを上げ、溝を通過したところで下します。そのまま前進し、後輪を浮かせ気味にして溝を越えます。

※前輪・後輪は完全に浮かせる必要はありません。段差が大きい、溝の幅が広い、クライアントが電動車いすに乗っている等の場合、一人でのサポートは危険です。必要に応じて他のスタッフや周囲の人に協力を求めましょう。



※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

127

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (11/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○坂道の上り方、下り方

上り坂では、からだを少し前傾させながら、一步一步、確実に押し上げます。思った以上に大きな力が必要ですので、押し戻されないように注意します。



上り坂では、からだを少し
前傾して押し上げます

ゆるやかな下り坂では、前向き状態で、クライアントの様子を確認しながら車いすをやや引くように下ります。



ゆるやかな下り坂では、車いす
をやや引くようにして下ります

※「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

128

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (12/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○坂道の上り方、下り方(つづき)

急こう配の下り坂では、後ろ向きになり、後方の障害物などに十分注意して、車体を維持しながら慎重に下ります。



急こう配の下り坂では、
後ろ向きになり、後方
の障害に注意して下り
ます

なお、前向きか後ろ向きかを決めるのは車いすに乗っているクライアントです。クライアントの意向と安全上の配慮、自身の体力などを照らし合わせ、適切な方法を選択しましょう。

※ 「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

129

②の4 車いすを使用する方(避難誘導に関連する事項) (13/13)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○狭い通路・混雑した通路

狭い通路やドアを通過するときは、車いすの左右に注意してください。

○車いすの方と一緒に階段で避難する場合★

やむをえず、階段で避難する場合は、車いすを使用する方に、その旨を説明しましょう。

ひとりでの介助等が難しい場合は、他の従業員等や周囲の方の協力を求め、無理の無い方法で、車いすの方と一緒に避難してください。

※ ★無きは「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

130

②の5 知的障がいの方(情報伝達に関連する事項)(1/2)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○ときには大きな声を発したり、危険な行動を起こしたりする場合がありますので、そのようなときには、まず「どうかしましたか？」とやさしく、わかりやすい表現で声をかけましょう。★

○「あれ」「それ」といったあいまいな表現や、抽象的な言葉、比喩的な表現は使わず、具体的な言葉ではっきりと、短く話しかけるようにします。またその際、視覚的な情報(イラスト、地図、ジェスチャーなど)を併用することでコミュニケーションがスムーズに進む場合があります。

※ ★無きは「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

131

②の5 知的障がいの方(情報伝達に関連する事項)(2/2)

主として従業員教育の際に
施設側で活用することを想定

○一度にたくさんのことを言われると混乱することもありますので、伝えたい内容は簡潔に説明します。

○2つ以上の行動を同時に説明すると混乱することもありますので、ひとつずつ伝えるようにします。

○大声で説明するとパニック状態になることもありますので、説明する場合には、ゆっくりとした口調で話しかけ、穏やかな態度で接します。

※ 「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

132

②の6 精神障がいの方、高次脳機能障がいの方(情報伝達に関連する事項)

主として従業員教育の際に施設側で活用することを想定

【精神障がいのある方】

- 「ゆっくり」「ていねいに」「繰り返し」の対応をこころがけてください
 - ・ゆっくり、丁寧に、繰り返しの対応をこころがけてください。
 - ・必要に応じ、「はい」「いいえ」で答えられるような具体的な選択肢をあげて質問しましょう。

【高次脳機能障がいの方】

- 「ゆっくり」「ていねいに」「具体的な」対応をこころがけてください。

※ 「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

133

②の7 認知症の方、高齢者の方(情報伝達・避難誘導に関連する事項)

主として従業員教育の際に施設側で活用することを想定

【認知症の方】

- 「ゆっくり」「ていねいに」「繰り返し」の対応を心がけてください。

【高齢者の方】

- 誘導の際も、コミュニケーションの際にも、あわてさせないようにしましょう。
- 高齢者は、若い人のペースで案内しようと急がせたりすると、置いて行かれるという思いから心理的にあせってしまうことがあります。また、早口で説明したりすると、コミュニケーションがうまくいかず、精神的にも疲れてしまいます。誘導も、コミュニケーションも、ゆっくりとクライアントのペースに合わせ、「気持ち」のフォローを忘れないようにしましょう。
- 避難誘導の際は、視覚障害者誘導用ブロック(点字ブロック)等につまづかないよう、声かけをしましょう。★

※ ★無きは「アクセシビリティ サポートガイド基礎編 イラスト追記版」(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イラスト追記:一般財団法人国土技術研究センター)より引用

134

※◆は、駅・空港や競技場、旅館・ホテル等に特有の例文。

(1/9)

時系列	No.	例文
火災発生時 (感知器作動時)	1	火事を知らせるベルが鳴っています。
	2	ただいま火災感知器が作動した場所を確認中です。
	3	ただいま〇階の火災感知器が作動しました。
	4	係員が確認しております。
	5	次の放送にご注意ください。
	6	新しいお知らせがあるときはすぐにお知らせします。
	7	係員の指示に従って落ち着いて行動しましょう。
	8	施設からの次の放送を落ち着いて待ちましょう。
火災確認時 (火災断定時)	9	火事です。
	10	〇階で火災が発生しました。
	11	落ち着いて避難してください。
	12	火災発生場所は離れています。すぐに影響はありません。
	13	係員が消火活動中です。
避難時	14	館内放送に従って避難して下さい。
	15	館内放送に従い行動してください。
	16	ここは危険です。避難する必要があります。

(2/9)

時系列	No.	例文
避難時	17	ただちに避難してください。
	18	避難階段で〇階へ逃げてください。
	19	避難階段を使って階下へ避難してください。
	20	避難階段はこちらです。
	21	避難階段はあちらです。
	22	こちらの階段から避難してください。
	23	あちらの階段から避難してください。
	24	階段を使ってください。
	25	避難口はあちらです。
	26	避難口はこちらです。
	27	ここから避難口まで約〇〇メートルです。
	28	低い姿勢で避難してください。
	29	タオルやハンカチで口をおさえてください。
	30	ハンカチ等を鼻と口にあて、煙を吸い込まないよう姿勢を低くして避難してください。
	31	煙から離れてください。
	32	余分なものは持たず、避難してください。
	33	足元に気を付けてください。
	34	落ち着いて行動してください。

時系列	No.	例文
避難時	35	慌てず、落ち着いて行動する様ご協力をお願いいたします。
	36	落ち着いて身の安全を確保してください。
	37	火災発生時には落ち着いて行動することが重要です。
	38	安全確保のため係員の指示に従って避難してください。
	39	混雑による事故防止のため、係員の整理誘導に従ってお進みください。
	40	大変混雑しています。ゆっくり進んでください。
	41	逃げてください。
	42	急いで避難してください。
	43	大至急避難してください。
	44	すぐに外に出てください。
	45	急いでください。
	46	走ってください。
	47	前に続いて順序良く避難してください。
48	順番を守ってください。	

時系列	No.	例文
避難時	49	みなさん、こちらに集まってください。
	50	散らばらずに、まとまって行動してください。
	51	一列にお並びください。
	52	皆さんを一時避難所へ誘導します。
	53	館外に避難してください。
	54	合図をしている者の方向に避難してください。
	55	赤いライトを振っている人の方へ避難してください。
	56	真っ直ぐ進んでください。
	57	こちらに避難してください。
	58	あちらに避難してください。
	59	私について来てください。
	60	こちらの係員が避難誘導いたします。
	61	一緒についてきてください。
	62	一緒に行動してください。
	63	こちらの誘導に従ってください。
	64	指示に従ってください。
	65	ご協力ありがとうございます。
66	しばらくお待ちください。	
67	そのままでお待ちください。	

時系列	No.	例文
避難時	68	指示があるまで、この場から動かないでください。
	69	案内があるまで、その場を立ち上がりず、お待ちください。◆
	70	ここでお待ちください。
	71	準備ができるまで、しばらくお待ちください。
	72	案内があるまで、この場でお待ちください。
	73	次の放送までお待ちください。
	74	並んでお待ちください。
	75	事故防止のため皆さんを順番に案内しています。
	76	混み合っておりますのでお待ちください。
	77	ただいま安全確認中です。
	78	エレベーターは使用しないでください。
	79	エレベーターは使用できません。
	80	エスカレーターは使用しないでください。
	81	エスカレーターは使用できません。
	82	押さないでください。
	83	事故の原因となります。前の方を押さないでください。
	84	混雑の原因となります。立ち止まらないでください。
85	走らないでください。	

時系列	No.	例文
避難時	86	館内へ戻らないでください。
	87	危険です。
	88	こちらは危険です。
	89	そちらは危険です。
	90	ここから入らないでください。
	91	ここは立ち入り禁止です。
	92	そこに入らないでください。
	93	こちらの場所では安全確保のためお客様の立入を禁止しています。
	94	緊急避難路には立ち入らないでください。移動をお願いします。
	95	線路内には決して入らないでください。◆
	96	安全が確認されるまで閉鎖しております。
	97	危ないので、近づかないでください。
	98	危ないので、そこから離れてください。
	99	すぐにそこから離れてください。
	100	この先は行き止まりです。
101	手荷物は持たないでください。	
102	喫煙や火気の使用はやめてください。	

時系列	No.	例文
避難時	103	静かにしてください。
	104	車いすの方はこちらに避難してください。
	105	けがをされた方、車いすの方、小さなお子様、ご年配の方から避難誘導します。
	106	お近くの係員に知らせてください。
	107	怪我をしている方は近くの係員に話してください。
	108	負傷者はいますか。
	109	どこを怪我されていますか。
	110	どこか痛いところがありますか。
	111	気分が悪い方はいますか。
	112	大丈夫ですか。
	113	今助けます。そのまま待っていてください。
	114	助けを呼んできます。待っていてください。
	115	すぐに助けが来ます。もう少し我慢してください。
	116	あきらめないで、がんばってください。

時系列	No.	例文
避難時	117	ストレッチャーが通ります。
	118	道を開けてください。
	119	周りの人にお声掛けください。
	120	まずは周りの安全を確保しましょう。
	121	わからない場合は周りの人と一緒に避難しましょう。
	122	ここは安全ですので、落ち着いて行動してください。
	123	非常電源に切り替わります。
	124	大丈夫です。安心してください。
避難完了時	125	安全が確認されるまで、そのまま待機してください。
	126	安全が確認できました。
	127	避難の必要はありません。
	128	ご安心ください。
	129	安全確認のため、ターミナルは閉鎖中です。◆
	130	安全が確認できましたので、運転を再開いたします。◆
	131	怪我をされた方、もしくは気分が悪くなられた方は、お知らせください。
	132	逃げ遅れた人はいませんか。

時系列	No.	例文
避難完了時	133	火災は鎮火しました。ご安心ください。
その他	134	さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。
	135	これは訓練ではありません。
	136	これはテスト放送です。
	137	これは訓練です。
	138	これより、避難訓練を開始いたします。
	139	ただいま訓練中です。
	140	気分の悪くなった人は、無理をせず、訓練を中止してください。
	141	皆様のご協力、ご理解の程よろしくお願い致します。
	142	訓練は終了しました。

※◆は、駅・空港や競技場、旅館・ホテル等に特有の例文。

(1/11)

時系列	No.	例文
地震発生時 (緊急地震速報受信時)	1	緊急地震速報です。
	2	まもなく地震が来ます。
	3	大きな地震が来ます。
	4	地震が発生しました。
	5	大きな地震が発生しました。
	6	〇〇県で地震が発生しました。
	7	強い揺れに備えてください。
	8	落ち着いて下さい。
	9	係員の指示に従って下さい。
	10	震度〇程度の揺れが予想されます。
	11	震度〇以上の揺れが予想されます。
	12	当館は耐震化されていますので安全です。安心してください。
	13	〇秒後に大きく揺れます。
	14	ただいま大きな揺れが発生しています。
	15	建物の安全を調べています。
	16	身の安全を確保して下さい。

(2/11)

時系列	No.	例文
地震発生時 (緊急地震速報受信時)	17	頭を保護して下さい。
	18	机やテーブルの下に身を隠し、身の安全を確保して下さい。
	19	その場で頭を保護し、揺れに備えて身を守って下さい。
	20	窓ガラスや倒れやすい家具から離れて下さい。
	21	机の下もしくは柱の近くにいてください。
	22	物が倒れる危険性のある場所を避けて下さい。
	23	上から落ちてくる物に気をつけて下さい。
	24	吊り下がっている照明などの下からは離れてください。
	25	倒れてくる物に気をつけて下さい
	26	危ない場所から離れて下さい。
	27	あわてないで下さい。
	28	外へ飛び出さないで下さい。
	29	揺れがおさまってから避難して下さい。
	30	無理に火を消そうとしないで下さい。
	31	エレベーターを利用しないで下さい。
	32	エレベーターの中にいる場合は、最寄りの階に停止させ、すぐに降りて下さい。
	33	施設からの放送を落ち着いて待ちましょう。

時系列	No.	例文
地震発生直後 (揺れがおさまったあと)	34	地震による津波が予想されます。
	35	津波に注意してください。
	36	津波警報が発令されました。
	37	津波が発生しました。
	38	この地震による津波の心配はありません。
	39	外に出るのは危険です。
	40	地震の揺れが弱くなりました。
	41	周りの安全を確認して下さい。
	42	大きい揺れの後は小さい揺れ、余震が発生します。
	43	余震による建物の揺れに十分注意して下さい。
	44	まだ揺れる可能性があります。周りの状況を確認してください。
	45	この建物は耐震補強されていますので、安心してください。
	46	しばらくお待ちください。
	47	次のアナウンスまでお待ちください。
	48	そのままお待ちください。
	49	ここでお待ちください。
	50	このままお待ちください。
	51	指示があるまで、この場から動かないでください。
	52	準備ができるまで、お待ちください。

時系列	No.	例文
地震発生直後 (揺れがおさまったあと)	53	非常電源に切り替わります。その場でお待ちください。
	54	案内放送があるまで安全な場所で待機してください。
	55	この場所は安全です。
	56	大丈夫です。安心してください。
	57	施設では災害対策を行っていますので安心してください。
	58	現在安全確認をしております。引き続き身を守る行動をとってください。
	59	落ち着いて身の安全を確保してください。
	60	落ち着いて行動してください。
	61	慌てず、落ち着いて行動する様ご協力をお願いいたします。
	62	みなさん、こちらに集合してください。
	63	ここへ座ってください。
	64	指示に従ってください。
	65	一緒に行動してください。
	66	散らばらずにまとまって行動してください。
	67	一列にお並びください。
	68	安全が確認できました。
	69	避難の必要はありません。

時系列	No.	例文
地震発生直後 (揺れがおさまったあと)	70	ご安心ください。
	71	津波の心配はありません。
	72	詳細は係員にお尋ねください。
避難時	73	館内放送に従って避難して下さい
	74	こちらの係員が避難誘導いたします。
	75	係員の指示に従って避難してください。
	76	避難口はあちらです。
	77	避難口はこちらです。
	78	ここから避難口まで約〇〇メートルです。
	79	避難階段はこちらです。
	80	避難階段はあちらです。
	81	こちらに避難してください。
	82	あちらに避難してください。
	83	こちらの階段から避難してください。
	84	あちらの階段から避難してください。
	85	階段を使ってください。
	86	机の下など安全な場所に避難してください。
	87	合図をしている者の方向に避難してください。

時系列	No.	例文
避難時	88	真っ直ぐ進んでください。
	89	上の階に避難してください。
	90	ゆっくり落ち着いて上に避難してください。
	91	できるだけ高い階へ避難してください。
	92	近くの安全な場所へ逃げてください。
	93	皆さんを一時避難所へ誘導します。
	94	館外に避難してください。
	95	前に続いて順序良く避難してください。
	96	余分なものは持たず、避難してください。
	97	できるだけ低い姿勢で進んでください。
	98	足元に気を付けてください。
	99	混雑による事故防止のため、係員の整理誘導に従ってお進みください。
	100	大変混雑しています。ゆっくり進んでください。
	101	落ち着いて避難してください。
	102	急いで避難してください。
	103	大至急避難してください。

時系列	No.	例文
避難時	104	逃げてください。
	105	急いでください。
	106	走ってください。
	107	私について来てください。
	108	こちらの誘導に従ってください。
	109	ご協力ありがとうございます。
	110	空港職員の指示に従ってください。◆
	111	赤いライトを振っている人の方へ避難してください。
	112	エレベーターは使用しないでください。
	113	エレベーターは使用できません。
	114	エスカレーターは使用できません。
	115	エスカレーターは使用しないでください。
	116	地震が起きたときにエレベーターを使うのは危険です。
	117	押さないでください。
	118	事故の原因となります。前の方を押さないでください。
	119	混雑の原因となります。立ち止まらないでください。
	120	順番を守ってください。
	121	混み合っておりますのでお待ちください。
	122	走らないでください。

時系列	No.	例文
避難時	123	館内へ戻らないでください。
	124	喫煙や火気の使用はやめてください。
	125	災害によって危険な場所があるので注意しましょう。
	126	緊急避難路には立ち入らないでください。移動をお願いします。
	127	危険です。
	128	ここは危険です。
	129	そちらは危険です。
	130	危険です。近づかないでください。
	131	そこに入らないでください。
	132	すぐに外に出てください。
	133	ここから入らないでください。
	134	頭上に注意してください。
	135	落ち着いて上に避難してください。
	136	こちらの場所では安全確保のためお客様の立入を禁止しています。
	137	すぐにそこから離れてください。
	138	ここは立ち入り禁止です。
	139	この先は行き止まりです。
	140	危ないので、近づかないでください。
141	危ないので、そこから離れてください。	

時系列	No.	例文
避難時	142	窓ガラスから離れてください。
	143	棚から離れてください。
	144	車いすの方はこちらに避難してください。
	145	まずは周りの安全を確保しましょう。
	146	わからない場合は周りの人と一緒に避難しましょう。
	147	周りに避難が困難な人がいたら声をかけて助け合いましょう。
	148	お近くの係員に知らせてください。
	149	道をあけてください。
	150	並んでお待ちください。
	151	事故防止のため皆さんを順番に案内しています。もう少しお待ちください。
	152	みなさん、静かにしてください。
	153	ストレッチャーが通ります。道を開けてください。
	154	怪我をしている方は近くの職員にお知らせ下さい。
	155	負傷者はいますか。
	156	どこを怪我されていますか。
	157	気分が悪い方はいますか。
	158	今助けますので、そのまま待っていてください。

時系列	No.	例文
避難時	159	あきらめないで、がんばってください。
	160	すぐに助けが来ます。もう少し我慢してください。
	161	大丈夫ですか。
	162	どこか痛いところがありますか。
	163	助けを呼んでできます。待っていてください。
	避難完了時	164
165		建物からは離れてください。
166		安全確認のため、ターミナルは閉鎖中です。◆
167		復旧の目処が立ち次第、再度放送します。もう暫くお待ちください。
168		電気の復旧見通しは現在確認中です。
169		停電は復旧しました。
170		現在、本格復旧に向け作業中です。今しばらくお待ちください。
171		怪我をした方や体調の悪い方がいればお知らせください
172		ただいま津波注意報が解除されました。ご安心ください。
173		ただいま、津波警報が解除されました。ご安心ください。
その他	174	これは訓練ではありません。
	175	これはテスト放送です。

時系列	No.	例文
その他	176	これは訓練です。
	177	これより、防災訓練を開始いたします。
	178	ただいま訓練中です。
	179	気分の悪くなった人は、無理をせず、訓練を中止してください。
	180	皆様のご協力、ご理解の程よろしくお願い致します。
	181	訓練は終了しました。